

伍 桃

NIIGATA UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
ALUMNI BULLETIN
G O T O H

巻頭言

同窓会長挨拶

同窓会長 齊藤 公二

これからの10年を見通した 本学の将来計画について

～優れたQOLサポーターの5つの要件と各ドメインの役割～

学長 山本 正治

卒業生への祝辞

新同窓会役員紹介

特集 ～地域医療への取り組み～

同窓会活動

同窓生は今

職場訪問

平成22年度学科近況報告

研究室Now!

国際交流

大学TOPIC

卒業生の就職状況

平成22年度大学近況報告

クラブ活動報告



第1回ホームカミングデー 記念講演
戦場カメラン 渡部陽一氏

同窓会長挨拶

同窓会長 齊藤 公二



7期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、新潟医療福祉大学同窓会の正会員になられたことを心より喜び申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

7期生のみなさんに、ひとつだけお願いをさせていただきます。それは、「大学の友人(特に同じ学科)と連絡を途切れさせないで欲しい」というお願いです。みなさんは、この春からほとんどの方が社会人となり、大学在学中とは違う生活が始まります。悲しいことも、つらいことも、うまくいかないこともたくさんあることでしょう。そんな時に私たちは力になりたいと思っています。頼れるのはやはり仲間です。ピンチの時の同窓会。いつかわかります。そのいつかのために、よろしくお願い致します。

さて、現場にてすでにご活躍の会員の皆さん、お元気ですか。

昨年は、みなさんもお存知のとおり、「第1回ホームカミングデー」を開催させていただきました。テレビなどで人気の渡部陽一さんを迎え、のべ1,000人を超える来場者にも恵まれて、大盛況に終わりました。そもそも、ホームカミングデーとは、卒業生が母校へ帰ってくる日という意味です。年に1回大学祭と同日に行う予定です。来年のホームカミングデーにはぜひお越しください。

昨年本学は10周年目を迎えたわけですが、それに際し、学科によっては、これまでの卒業生全員と先生方、在学生まで声をかけて大規模な学科同窓会を行うという企画を考えているところもあるようです。私たち同窓会役員からだけでなく、会員の皆さんからそういった新たな同窓会活動の話が出てくるのは大変うれしいことです。本会としても、少なからず力添えをさせていただく考えです。幹事の皆さん、どしどしご連絡ください。

今年も会員の皆さんが、何かのイベントや会に出席してくださることを役員一同楽しみにしております。

10
これからの
年を見通した
本学の将来計画
について新潟医療福祉大学
学長 山本 正治

～優れたQOLサポーターの5つの要件と各ドメインの役割～

1 将来計画の必要性

本学の基本理念は、QOLを支える人材を育成する大学、地域社会のニーズに応える大学、国際社会に貢献する大学の3項目です。この精神と目的を短くまとめて「優れたQOLサポーターの育成」と表現しています。

開設時に中長期目標が策定されています。中期目標では「保健医療福祉分野の大学で日本一にする」、「学生数5,000名の大学を作る」、長期目標では「本学を同分野の大学としてアジア一にする」です。しかし何を客観的指標として、いつまでに日本一、アジア一になるか記載されていません。そこで創立10周年を迎えた現在、所期の目標に到達するために、新たな戦略的及び戦術的視点から目標・計画の再構築を図ることにしました。

2 大学の理念・将来目標

「優れたQOLサポーターの育成」を全学の理念とします。この理念実現のため、以下の将来目標を設定しました。

- 1) 長期目標(2010年～2020年): 地域社会のニーズに応えるため、質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5,000名の大学とする。
- 2) 中期目標(2010年～2013年): 質を保证するための大学組織作りと教育・研究施設の整備を行なう。

3 優れたQOLサポーターの5つの要件

質保証の要件として5項目を掲げました(イメージ図)。論理的思考力(専門知識と技術を身につける、Science)、チームワークとリーダーシップ(チームワークを大事にし、さらにチームをまとめる、Teamwork)、エンパワーメントとコミュニケーション力(対象者がやる気を起こすようコミュニケーション力を用いて支援する、Empowerment)、問題解決力(自ら課題を見つけ、解決する、Problem-solving)、自己の可能性を実現する力(自分の可能性の実現に向けて努力する、Self-realization)。英語頭文字を取るとSTEPSです。

対象者のQOL向上

優れたQOLサポーターの
5つの要件と各ドメインの役割

S - 専門知識と技術
T - チームワークとリーダーシップ
E - 対象者のやる気を起こす
P - 問題解決力
S - 自己の可能性を実現する力



4 “めんどうみのよい大学” (行動目標)

上記5項目を推進するに当たり、学部学生・大学院生だけでなく卒業生も対象にして、必要なサービスを必要ときに必要なだけ受けられる大学を目指します。この一連のプロセスを“めんどうみのよい大学”と定義しました。

5 10のドメイン(柱)

将来計画を具体化するために10のドメインを設定しました(イメージ図)。大学拡充計画推進、入試情報の提供強化、教育内容充実、学生支援強化、教員人材確保、研究機能充実、同窓会と生涯学習支援、地域・産官学連携推進、国際交流推進、組織マネジメント改革です。イメージ図は学生及び同窓生を支える各ドメインの役割を示します。

ドメイン別にさらに長期目標と中期目標を設定し、この目標を具体化するために中期計画、年次別アクションプランを策定しております。なお中期目標や年次別アクションプランの達成度は学内及び学外評価委員からチェックされ、学長の責任が問われることになります。

6 将来計画ドメイン:同窓会と生涯学習支援の紹介

1) 長期目標 (2010年-2020年)

【基本目標】本学卒業生を会員として、会員相互の交流・連携・生涯学習を推進することにより、“めんどうみのよい大学”としての発

展、地域社会の保健・医療・福祉・スポーツの振興をめざす。

【目標項目】学内における同窓会支援体制の整備を図る。同窓生相互の交流・連携の支援の強化をめざす。同窓生の専門知識と技術(論理的思考力)、問題解決力の強化を図るため生涯学習の支援の強化をめざす。同窓生のリーダーシップ力を活かした社会貢献事業の支援の強化をめざす。

2) 中期目標と中期計画 (2010年-2013年)

(1) 同窓会支援事務局体制の充実・強化→支援を推進する事務局体制について検討する(同窓会支援室)。(2) 同窓生相互の交流・連携の支援強化→現状把握と目標の共有化を図る。同窓会の役割・使命の学生への周知を図る。会員相互の連絡体制システムの構築を図る(以上同窓会支援室)。広報システムを強化する(広報委員会)。(3) 同窓生の生涯学習の支援強化→生涯学習に対するニーズを調査し、支援のあり方を検討する。同窓生のニーズと大学側の生涯学習内容の整合性の強化を図る(生涯学習センター運営委員会)。

7 まとめ

これからの10年間、日本は社会・経済・政治などあらゆる面で激動するはずだ。保健医療福祉スポーツ分野も例外ではありません。如何なる変化が来ようとも、ここに示した“基本原則”を守れば、対処できると確信しています。将来計画は、大学と学生や本学卒業生との“契約の書”でありますので、学長として結果責任を取る覚悟で臨みます。

卒業生への祝辞

卒業を祝して

副学長
渡辺 敏彦

平成23年3月に卒業する7期生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学で4年間学んだ知識・技術を駆使して社会人一年生として大活躍してくれることと確信しております。この機会に、サミエル・ウルマン（詩人）の「青春」という詩の一節を皆さんに紹介してお祝い言葉と致します。「青春とは人生のある期間のことを示すのではなく、心のありかたをいうのだ。」皆さんが、入学時のキラキラした瞳と挑戦する気持ちを常に持ち続け、人生を青春して頂きたいと思います。

卒業生の皆さんへ

副学長/社会福祉学部長
丸田 秋男

第7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新潟医療福祉大学で学んだことを誇りにして、保健・医療・福祉等の第一線の現場で存分に活躍してください。皆さんの最大の強みは、豊かな感受性と想像力です。どんなに専門知識や技術が優れていても、患者さんやクライアントのこころの働きと真のニーズを理解できない者は、優れたQOLサポーターとはいえません。患者さんやクライアントの喜びを自らの喜びとし、自己の可能性を最大限に追求してください。皆さんのご活躍を心から期待しております。

卒業おめでとう

作業療法学科長
大山 峰生

作業療法学科7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大学卒業後は、社会人として新たな生活が始まり、これからどのようにして励むか、ひとりひとりがそれぞれに考えることと思います。
“志を立てるのに遅すぎることはない”という格言がありますが、志は早く持ち、その志に向けて計画的に自分の意思で着実に行動をおこしてください。毎日の生活を充実させるためにも、そう思います。志を達成させようとする時には、これまでに経験したことのない大きな困難に遭遇することがあります。そんな時は、大学で友人と共に培った精神で力強く突破です。
ますますのご活躍を、心からお祈り申し上げます。

卒業生へのお祝いメッセージ

健康栄養学科長
斎藤 トシ子

我が大学生活に「悔いなし」と言える人に対しては、心からの敬意と拍手を、残念ながら「悔いが残った」という人に対しては、心からのエールを送ります。もし、「悔いが残った」としても、悔いを感じたことで、より良く生きるための知恵を授かったと考えれば、結局は、わが人生に「悔いなし」と言える日を迎えることはできると思います。これから出会う全ての経験を受けとめ、吸収し、豊かな人生を築くことを祈念いたします。ご卒業おめでとう!

卒業生の皆さんへ

健康科学部長/看護学科長
塚本 康子

看護学科2期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が着任し初めて参列した皆さんの入学式を思い出します。その2期生が巣立っていくことに感慨を覚えています。活気があり、時には羽目を外しすぎるほど元気のよい学年でした。でも、1月の国家試験に向けた結団式で学年全体が一つになって氣勢を上げる姿を見て、成長ぶりを実感しました。社会に出ると試験もあるかと思います。元気に明るさと誠実を武器に、たくましい看護職に育っていかれることを願っています。今後の皆さんのご活躍を祈念しております。

待ちにまった社会人

副学長/義肢装具自立支援学科長
江原 義弘

卒業おめでとう! 4年間の困難を乗り越えて身につけた専門力を社会に還元してくださいね。困難に直面して迷ったときは「自分は何を最優先にするべきか?」を考えてください。きっと解決の道が見つかると思います。ひとりでは手に負えないときは仲間と連携して困難に立ち向かってください。さて、AT学科もついに卒業生を送り出します。社会人としてどンドン育っていくのを楽しみにしています。後輩も後に続きます。

卒業おめでとう

理学療法学科長
大西 秀明

理学療法学科卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。国家試験も終了し、後は結果を待つばかりとなりました。4年間、様々なことがあったかと思いますが、この4月からは理学療法士として病院・施設で活躍されることと思います。これからの人生、大学で培った力を源とし、自由な発想とともに能動的に行動を起こし、楽しく仕事をされることを期待しています。今後の皆さんの健康と益々のご活躍を祈願致します。

卒業を祝して

言語聴覚学科長
糟谷 政代

第7期生の皆さん卒業おめでとうございます。卒業に際し、入学からの4年間の思い出は尽きることなく走馬灯のように駆け巡っていることでしょう。大学生時代の勉強・経験・体験・見聞等はこれからの人生の礎となるでしょう。4月からは社会人として、夢に向かっての第一歩が始まります。社会人としての道は決して自分の思いどおりには歩みませんが、胸に希望の灯を燃やして未来の夢に向かって羽ばたいていってください。応援しています。

すばらしい旅立ちに向けて

健康スポーツ学科長
丸山 敦夫

ご卒業おめでとうございます。社会人になって考えて欲しいこと、それは人生設計です。若いと思っても老化は進んでいます。あつという間に40年が過ぎています。細胞分裂でDNAが複製されるのですが、複製の回数が決まっているようです。自分はどんな仕事を持ち、いつ結婚し、いつ子どもを持ち、いつ退職するかを予想してみてください。自分の寿命を意識して、今を考えていくことも重要なのではないのでしょうか?

7期生の皆さんへ

社会福祉学科長
伊東 正裕

社会福祉学科7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは今日、通い慣れた大学を離れ、新しい人生に旅立ちますが、当学科の卒業生であることに誇りを持ち、それぞれの分野でご活躍されることを期待しています。社会福祉の仕事では(それ以外の仕事でも)、厚い現実の壁にぶつかって悩むことがあるかも知れません。そんな時は、是非母校に足を運んでください。きっと何か解決へのヒントが見つかると思います。学科教員一同、皆さんのご多幸をお祈りしています。

新同窓会役員の紹介

理学療法学科 内藤 翠



私が新潟医療福祉大学で過ごした4年間は、学科を超えて多くの友人、先生方と出会い、充実した時間を送ることが出来ました。この先も在学生の皆さんがよりよい学生生活を過ごせるよう、今までの経験やこれから社会に出て学んだことを提供していきたいと思っています。微力ではありますが精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

作業療法学科 高野 葵



本学で尊敬する先生方や先輩方、素晴らしい仲間に出会って4年間大学生活を送れたことを誇りに思っています。また、本学での出会いや経験は、社会人の基礎となり、自分の財産となると感じています。卒業を迎える今、本学で、4年間過ごせたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は卒業生や後輩、そして大学との素敵な繋がりが続いていくように、同窓会役員のみなさんと協力し、楽しく頑張っていきたいと思っています。7期生のみなさんには何かと依頼することがあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

言語聴覚学科 鈴木 佳奈江



以前大きな存在と感じていた先輩方の立場に、今度は自分が立っているのかと思うと感慨深いものがあります。入学当初何もわからなかった私達がこうして4年間を過ごすことができたのも、多くの先生方や先輩方から支えて頂いたこと、また仲間達と共に支えあってきたことにあると思います。今後は、私達の大学生活や社会に出てからの経験等の情報を提供することで、在校生の方々のこれからに役立てて頂ければ幸いです。卒業生の皆様にもご協力をお願いすることもあるかと思いますが、その際にはよろしくお願いいたします。

義肢装具自立支援学科 郷 貴博



あっという間に4年が経ち、あとは卒業式を残すのみとなりました。我々の学科は私たちが1期生で不安なことだらけでしたが、学生同士が協力した教員の方々の大きな支えの下、ひとりひとりの個性を大切にしたいと良い雰囲気の中で過ごすことができたと思います。その分学生同士の絆や教員の方々の信頼関係は、他の学科に負けないものになったはず。この素晴らしい大学、学科で4年間過ごせたことに感謝すると共に、そこで得たものを活かし、本学の卒業生として恥のないように活躍していきたいと思っています。今後は卒業生や在学生の皆様との繋がりを大切に、少しでもお役に立てるように精一杯頑張ります。しかし、まだまだ未熟者なので同窓会役員の方々にはご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

健康栄養学科 高橋 恵



本学で尊敬する先生方や先輩、多くの仲間と出会い、たくさんの笑顔に囲まれ、とても充実した4年間を過ごすことができました。本学で学んだことや経験したことは、これから社会に出ていくなかで自分の糧となり、価値のある大切なものになっていくと感じています。今後は同窓会役員として、社会に出て学んだことなど様々な情報を提供し、これから続く後輩達が笑顔の溢れる充実した学生生活を送れるよう、できる限りのサポートをしていきたいと思っています。7期生の皆さんには、今後何かとご協力を求めることがあると思いますが、よろしくお願いいたします。

健康スポーツ学科 小林 愛衣



私はこの4年間、新潟医療福祉大学で夢を現実にしようとする中で、沢山のことを学び、沢山のひとと出会ってきました。その経験がこれから社会に出ようとする私にとって、大きな力であり支えとなっています。これからは、役員として後輩たちが夢を現実にするためのサポートをしていきたいです。よろしくお願いいたします。

看護学科 高橋 陽子



大学に入学してからの4年間はあっという間で、入学した日を昨日のように感じます。私はこの4年間で、様々な人々と出会い、学ぶ事で、自身を成長させることが出来ました。そんな、充実した大学生活で得たものは、今後社会に出たときの助けになってくれると感じています。

今まで支えてくださった先生方、そして一緒に頑張ってきた友達、本当にありがとうございます。この先も在学生がより良い学校生活を送り、成長していくことが出来るよう、同窓会役員として、尽力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

社会福祉学科 鈴木 亜起子



本学で過ごした4年をふり返ると、多くの仲間に出会い、尊敬する先輩、先生方に暖かく指導いただき、充実した日々を笑顔で過ごすことが出来ました。この4年間の出会いや経験は、春から始まる新生活の励みになると感じています。

同窓会役員をやらせていただくにあたって、後輩達の学生生活・卒業後の進路がよりよいものになるよう、微力ながら精一杯頑張っていきたいとお思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

理学療法学科 神田 真里 (首都圏支部)



振り返れば4年前、入学当初はどこか緊張しながら大学に向かっていましたが、今では私にとってかけがえのない場所になりました。それは4年間で出会えた仲間、先生方がいたからこそです。大学で過ごした日々の全てが私にとって一生の財産であり、これからもこの絆を大切にしていきたいと思っています。

在校生の皆さんに職場の近況報告や実習・就職のアドバイスをすることで、卒業生と在校生、また新潟と関東の架け橋になれば良いと考えています。7期生同窓会役員として、精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

作業療法学科 河内 みなみ (首都圏支部)



本大学で、同じ目標を持つ仲間や尊敬する先生方と出会い、さまざまな経験と共に成長することができ、充実した4年間を送ることができました。そしてこれからの経験は、今後社会に出て行く中での自信や支えになっていくと思っています。

同窓会役員として本大学で得た繋がりを大切に、卒業後も卒業生同士、また卒業生と在校生との連携をはかり、情報発信や情報交換のお役に立てたらと思います。

言語聴覚学科 小松 慎太郎 (首都圏支部)



私が大学で過ごした4年間は、個性的な友人や、尊敬する先生方に出会えたおかげで、とても有意義で、充実したものが出来ました。思い返せば何気ない会話や授業風景など、その時は何とも思わない光景が懐かしい思い出になっていくと同時に、これから社会に出て、歩んでいく自分自身の大きな支えにもなるのだと思います。

同窓会役員を務めるにあたり、大学生活、臨床経験で得た知識や経験を提供し、後輩たちが新潟医療福祉大学に通ってよかったと思えるような、より良い大学生活を送れるよう、また卒業生と在学生が繋がりを築けるよう、お役に立てればと思います。精一杯頑張っていくので、よろしくお願いいたします。

義肢装具自立支援学科 長澤 佳祐 (首都圏支部)



義肢装具自立支援学科は私たちが1期生というところから何事も手探りの4年間でした。分からないことも多くありましたが、その度に同期や他学科の学生の協力、先生方からの助力のおかげで問題を解決していくことができ、充実した学生生活を送ることが出来ました。卒業後も本学での経験や出会いを胸に、精一杯努力していきたいと思っています。さて、今後は同窓会役員の一員として、それぞれの道を歩んでいく卒業生の皆様をつなぐ架け橋のひとつに、また、在学生の皆様には、卒業生の卒業後の状況や現場での職務内容など様々な情報を提供できるように努めていきたいと思っています。特に、就職難のこの時勢に在学生の進路がより良いものにできるような情報を発信していきたいです。初めてのことなのでいろいろ戸惑うところはあると思いますが、自分に出来ることを精一杯がんばっていききたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

健康栄養学科 難波 友美 (首都圏支部)



この大学での4年間は宝物です。同じ志とあたたかい心をもった仲間や支えてくださった先生方、先輩方、家族、多くの方々のおかげで、かけがえのない日々を過ごすことができました。

これから夢に向かって巣立ち、離れ離れになります。就職を機に新潟を離れる私ですが、今ではお世話になったみなさんの架け橋として、仲間の皆さんのつながりや情報提供のお役に立てればと思います。7期生の皆さん、そして関係各位の皆様方、これからも永らくよろしくお願いいたします。

看護学科 鈴木 幸子 (首都圏支部)



私はこの大学で4年間学生生活を送る中で、多くのことを学ぶことができただけでなく、先生方や多くの友人達と出会うことができ、とても充実した日々を送ることができたと思います。様々な経験や関わりから得たことはとてもたくさんあります。私達看護学科はまだ歴史が浅い学科ではありますが、多くの方の支えのおかげでここまで来ることができました。今後も学生生活で得たことを活かして、さらに成長していけるように努力していきたいと思っています。卒業生や後輩のみなさん、そして大学との素敵な繋がりが続いていくように、同窓会役員のみなさんと協力して頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

社会福祉学科 齋藤 梢 (首都圏支部)



大学生活4年間、最高の仲間や、素晴らしい先輩や後輩、先生方等様々な人に支えられました。感謝の気持ちと人とのつながりの大切さを今改めて感じています。

自身の経験を活かし、後輩のみなさんが充実した学生生活を送れるよう、情報提供等を通してサポートしていきたいと思っています。先輩方や後輩のみなさん、そして卒業生のみなさんとの繋がりを大切に、同窓会役員として精一杯努めていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

New Face
Information

津川病院 地域医療への 取り組み



今回の特集では、地域医療に取り組む県立津川病院についてご紹介します。

紹介してくれるのは、社会福祉学科を2007年に卒業され、県立津川病院に医療相談員として勤務されている伊藤志津子さんです。



1) 津川病院の概要

当院は福島県との県境にある阿賀町に位置し、僻地医療拠点病院として指定されています。阿賀町は人口約13900人、高齢化率40%以上で、県内で栗島浦村に次いで2番目に高い地域であり、中山間地の豪雪地帯で、交通の便も悪く、過疎地域です。その環境の中、当院は、診療科13科・病床数54床の町内唯一の病院として、急性期医療を担っています。また、町内にある4か所の町営診療所と連携し、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを実施し、在宅医療＝出向く医療に力を入れています。

2) 具体的な取り組みについて

当院の患者は医療受給者だけではなく、介護サービス受給者も多いです。平成22年度の当院入院患者の平均年齢は80歳であり、そのうち約半数が介護サービス受給者です。一度罹患したら日常生活動作が低下しやすいため、入院時から院内スタッフはもちろんの事、院外の介護支援専門員、サービス提供担当者、福祉行政、保健師、薬剤師等と連携を図り、病気の治療と併行して、在宅サービスの見直し等を行い、早期退院を目指しています。また、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリなどの提供を通じて、在宅における生活の状況把握に努め、医療の提供だけではなく、保健・福祉と連携を図り、在宅からケアの見直しを行い、予防や早期発見に取り組んでいます。受診、入院、退院、訪問の際には本人・家族管理である「連絡ノート」や「健康ファイル」を活用し、関わった担当職員等がその時の患者の状況を記載、データを挟めていきます。現在の資料を有効に活用した取り組みを通じて、患者・家族・医療・福祉・保健がより密な連携を図る事ができています。



3) 院長コメント

「津川病院における医療相談員の意義」

2007年(平成19年)4月に伊藤志津子さんが来られてから病院は大きな変革を遂げました。彼女は“院内連携”と“地域連携”の要であり、介護・医療・保健の調整役として活躍しています。また病院業務以外の学会発表や教育啓発活動にも積極的に取り組んでおり、「連携ノート」や「健康ファイル」などの津川病院の取り組みの外へのアピールにも一役を買っています。さらなる活躍を期待しております。

4) 津川病院の取り組みについて感じたこと

当地区における医療は、一つの専門職や、一つの施設の関わりだけでは、患者の生活に関するサポートはできません。高齢者は慢性的疾患を抱えている事が多く、在宅での生活、ケア、療養から介入していく必要があると思います。年々、高齢化率が高まる中、ぜい弱化する家族介護の問題もあります。多職種が連携を図り、患者・家族をサポートする体制が必要不可欠であると思います。

5) その他(同窓生に伝えたいこと)

学生時代に素晴らしい講師の方々、と、良き仲間に出会え、学べたことが今の私の原動力となっています。時々、倫理と現実の間に悩むことがあります。その時に、学生時代の学びを思い出し、原点に戻り考えることで、一歩ずつ進んでこられました。

同窓会のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



第1回 ホームカミングデー開催

第1回目のホームカミングデーのメインイベントは戦場カメラマン渡部陽一さんの記念講演でした。記念講演は11時から開演でしたが渡部陽一さんの人気はとてつもなく朝早くから待っていらっしゃる方もいました。そして同窓会役員が想像していなかった約800名の方が渡部さんの記念講演を楽しみに大学に足を運んでくれたのです。多くの方々に渡部さんの講演を聞いていただきたく急ぎ講演会場を第2実験実習棟大講義室から図書館棟の大講堂へ変更しました。それでも室内に全員が入りきれないため講演の中継放送の許可を当日渡部さんにお願しました。渡部さんは快く承諾してくださり中継放送の会場となった大講義室へも記念講演前に顔を出してくれました。講演会場となった大講堂は渡部さんの登場で一気に盛り上がりました。講演テーマは「家族の絆 世界100ヶ国以上の家族と過ごした時間」でした。あの独特な口調で渡部さんが戦地で体験した出来事を話してくださいました。渡部さんのゆったり口調と面白い雰囲気はテレビと同じでしたが、拳を握りしめながら戦地について力強く語るところは戦場の悲惨さを物語っているようでした。渡部さんが戦場で撮影した写真もスクリーンで見せていただきました。明るく笑顔な子供たちの写真がとても印象に残っています。どんなに悲しいことが起こったとしても笑顔でいることは尊いことだと感じました。講演会の最後には質問コー

ナーを設け、会場の方々からの質問を渡部さんに答えていただきました。奥様とのなれそめ話もしていただき会場がにぎわいました。たくさんの方々に参加していただき第1回目のホームカミングデーの記念講演は大成功だったのではないかと思います。ですが同窓会役員の人手が足らず案内等の不備があったことをここでお詫びさせていただきます。またこのような機会があることで大学に縁遠くなった卒業生が大学に行きやすくなったと言われるよう同窓会役員一同頑張っていきたいと思います。

同窓会役員 吉川 萌(健康栄養学科 2005年卒)



控室にて 渡部陽一さんと齊藤会長



実行委員会 ミーティングの様子



会場の外まで席を求め長蛇の列



講演後に渡部陽一さんを囲んで

実行委員活動レポート

初めてのホームカミングデーの準備は昨年の6月から始まりました。まずは、「いつ、どんなプログラムで実施するか?」から始まり、すべて一からの準備です。「本当にできるのか?」という不安も一杯の中、役員で知恵を絞ります。ホームカミングデーと伍桃祭を一緒に楽しめる一石二鳥ということで、10月9日、10日の伍桃祭に併せて行い、内容は著名人の講演会と交流会で決定。ここで最大の問題にぶち当たります。「誰に講演を依頼する?」「そもそもどうやって依頼するの?」

その時、この頃少しずつテレビに出始めていた戦場カメラマンの渡部陽一さんが戦場の医療現場や家族の絆について講演を行っているという情報を得ました。まだ、テレビの露出も少なく、役員でも「渡部陽一って誰?」という状況だったので、講演依頼の決定はなかなか勇気が必要でしたが、今思えば、あの時依頼していて良かったと思いま

す。その後1ヶ月ほどで爆発的に人気が出て、少し依頼が遅ければ、講演はできなかったでしょう。

同窓生サイト、「伍桃だより」、伍桃祭ポスター、市報だよりなどに情報を掲載し、案内のハガキを近県在住の同窓生の皆さんへお送りいたしました。一般の方からの問い合わせが殺到するという大変な状況の中、多数の同窓生からのお申し込みもいただきました。

いよいよ、前日。雨の中、実行委員は最後の準備に追われ、伍桃祭1日目を楽しむ余裕はありませんでしたが、明日に迫った大イベントを楽しみにしながら、最終打合せ、準備を行いました。



ホームカミングデーの交流会の様子

同窓会役員 保刈 芙美 (健康栄養学科 2005年卒)

渡部陽一さんの講演の後、交流会を行いました。この交流会には数十名の同窓生の方をはじめ、山本学長、渡辺副学長もご参加下さいました。

始めに、齊藤会長から挨拶があり、山本学長、そして渡辺副学長から同窓生に応援のメッセージをいただきました。なごやかムードで始まった交流会でしたが、遠方から参加して下さい同窓生の方や、卒業してから一度も会っていなかった同級生の参加もあり、懐かしい再会に次第に話が弾みました。同級生との再会はやはりうれしいもので、仕事やプライベートの話など近況報告に始まり、将来の話にまでに発展していました。大学を卒業し社会に出てからは、仕事関係の方と毎日接し同窓生と話す機会も時間も少なくなってしまう。そして学科、学年の枠を越えた交流はなかなか持てないのも現状です。職場の方々と話することはもちろんとても大切なことですが、気心の知れた同窓生同士で話すことで、大学当時楽しかった出来事で盛り上がったり、今思っている事や考えている事を知ることができ、共感したり頑張っている姿に刺激を受けました。このように話ができることで、自分自身もさらに励んでいかなければと思うことが多々ありました。ですので、今回のような交流会を開

催できたことはとても良い機会だったと思いました。これをきっかけに同級生同士、そして先輩後輩同士のつながりがより強くなり、今後のお互いの仕事や生活の場に生きてくれば良いと感じています。同窓会では今後も交流会のような機会を設けて、同窓生の交流の場、さらには活動の場を作っていきたいと考えています。ご参加下さったみなさん、ありがとうございました。またこのような機会がありましたらご参加、ぜひお待ちしております。



首都圏支部集会

同窓会役員 星野 広樹 (健康栄養学科 2010年卒)

こんにちは。同窓会役員の星野です。今回は昨年の12月4日に、東京で行なわれた首都圏支部集会についてレポートしたいと思います。

なかなか首都圏役員と交流の機会がなく、最初は緊張した面持ちで、会がスタートしました。まず自己紹介から始まり、一通りした頃にはもう、最初の気まずさはどこへやらで、ワイワイしながら時間を共有していました。やはり、同じキャンパスで学んだ仲間たちなんだなと改めて感じた瞬間でした。さらに様々な職種、学年が集まっているので、すごく勉強になることが多いです。その後の進行も、会長が気さくな方で、とても楽しく時間が流れていきました。会の議題となったことは、伍桃祭で戦場カメラマンの渡部陽一さんをお呼びした際の振り返りや、首都圏や関西の役員と効果的に連携していける方法等、とても白熱したものとなりました。

そして、集会が終わるとその足で懇親会の会場へ向かいました。そこでは、よりプライベートな話や、少しおバかな話など、本当に笑いの絶えない懇親会になりました。

正直な話、人手が足りないことで、できない事業がたくさんあります。初めての方でも、大歓迎なので、役員会案内の封筒が届きましたら、ぜひ参加してほしいと思います。よろしく願います。



- ほんなかムードで楽しかったです。集会に参加できて良かったです。ありがとうございます!! 渡邊
- 先輩や同級生とたくさん話ができ楽しかったです!ありがとうございました。これからよろしくお願いします。久保
- 一度、同窓会に顔を出して下さい。とても楽しいです。星野
- 卒業して5年目になります!!元氣ですか?みんなに会いたいです。連絡するから待ってね 大滝
- とても親しみやすい同窓会です。参加して良かったです。小林
- みんながんばってますか?またみんなに会いたいです。今年から同窓会委員になったよ(笑) 三膳

同窓生は

『仕事』を楽しむ＝『人生』を楽しむ

【平成22年10月同窓生サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

保護課では主に生活保護に関する業務を取り扱っており、病気や事故で働けなくなったり、離別や死別で収入がなくなったりするなど、何らかの原因によって生活に困っている人に対し、その程度に応じて国が定めた最低限度の生活を保障するとともに、一日も早く自分自身の力で生活できるように支援しています。

その中で、私はケースワーカーとして、担当地域の被保護者の家庭訪問を行ったり、新しく申請に来られた方の面接を行ったりしています。また、担当地域の民生委員の方と連携を図ったり、病院や介護施設とカンファレンスを行ったりするなど、関係機関との連絡・調整などの業務も行なっています。

Q:仕事に対するモットー

仕事に対するモットーは、『仕事を楽しむ』です。

普段の生活において、仕事は半分以上の時間を占めるため、仕事を楽しむことができれば、人生を楽しむことができるという自論

の下、仕事に対し、興味や関心を持ち、辛いことがあっても、楽しく前向きに捉えるようにしています。

また、仕事を楽しむことは、自己成長や自己実現、仕事上のストレスの軽減に繋がり、仕事を続けていく原動力になると考えています。

Q:今後の夢や目標

市職員ということで、何年か勤務すれば異動することが考えられますが、どのような場所に異動しても、市職員として市民の役に立ちたいという初心を忘れず、その場所で自分はどうなことができ、どのようなことを市民に還元できるのかを常に考えていきたいと思っています。また、それまでの経験を生かし、誰もが住みやすい新潟市になるよう、熱い心と冷たい頭を持って仕事に取り組んでいきたいと思っています。

目標は福祉先進都市『新潟』です!!



新潟市中央区役所保護課 勤務
田中 栄司さん 2006年卒
社会福祉学科



豊かな表現力を目指して

【平成22年11月同窓生サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

回復期リハビリ病棟に所属しています。急性期病院で治療された患者さまが当院に転院してこられ、在宅復帰に向けたリハビリを提供します。脳卒中・交通事故、骨折などの患者さまが大半です。

ST業務は高次脳機能障害・dysarthria・摂食嚥下障害といった成人領域全般を対象としています。

Q:仕事に対するモットー

タイトルにもしましたが、いかに相手に伝わりやすい説明・アプローチができるかということをいつも念頭に置いて業務をしています。高次脳機能障害や摂食嚥下障害といったSTが関わる領域というのは目に見えにくかったり退院後に予期せぬ事態を招くことが少なくありません。ですから患者さまやご家族への説明は怠ってはいけませんし、“説明した”だけで満足するのではなく、きちんと相手に伝わったかどうか大切に感じています。

Q:今後の夢や目標

私は同窓会の役員をしています。平成21年には同窓会創立5周年の記念パーティーの実行委員として携わらせて頂きました。協力してくれる方が多いほどアイデアも出ますし仕事もサクサクと進みます。

卒業後は業務や日々の生活に追われて、同じ目標に向けて頑張っていた友人とは疎遠になりがちです。

そんな時こそ同窓会というリンクを利用して卒業生とのつなが

りを続けていきたいと思います?役員会のある日はメディカルスタッフとして「うちの病院はこうだよ」という情報交換ができるのいいなと思っています。

“同窓会なんて…”と思う方が多いかも知れませんが是非参加していただきたいなと思います。



総合リハビリテーションセンター
みどり病院 勤務
平野 祥子さん 2007年卒
言語聴覚学科

笑顔で接客!!

【平成22年12月同窓生サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

接客を中心に現金管理、売り場管理、レジ、発注、といった日常業務を行っています。お薬を求めて来店されたお客様にその方の症状に合ったお薬をお勧めしたり、健康面についてアドバイスしたりしています。

Q:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか?

大学では、友達や教授の方々だけではなく、先輩や他学科の方々や実習先の先生方など多くの人々との交流の機会がありました。

多くの人達との交流の中で得たコミュニケーション能力は今の仕事にとっても役立っていると思います。

Q:仕事に対するモットー

接客業なので常に笑顔で元気よくをモットーにしています。

Q:今後の夢や目標

常に探求心を持つことです。疑問や興味を持ったことに対して追及することで自分自身ステップアップして行けると 생각합니다。探究

心を持つことで自分の夢に一步近づけるのではないかと思います。



ウエルシア関東株式会社 南苗口店 勤務
立川 八重子さん 2008年卒
健康栄養学科



社会福祉法人 信楽園病院 勤務
柿倉 牧子さん 2010年卒
看護学科

笑顔でいることの大切さ

【平成23年1月 同窓会サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

看護師として働いています。看護師としての基本的な技術の他、配属された病棟が糖尿病とリハビリを専門にしている所なので、糖尿病の教育入院の方に糖尿病について指導してったり、病院から在宅に帰るまでの退院支援を主に行ったりしています。

Q:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

はい。大学のとき、わからないところは文献などで調べるということを当たり前に行っていたので、就職してからわからないことがあっても調べ方がわからないということはなくスムーズに調べることができています。また、大学のときに利用していた参考書などは今でも時々見るがあります。

Q:仕事に対するモットー

常に笑顔で患者様と接することを考えています。自分がどんなに精神的に、体調的に辛くても、それを患者様の前では見せずに笑顔と元気をモットーに仕事をしています。患者様の笑顔やありが

たという言葉などを聞くと自然に嬉しくなり笑顔になります。笑顔でいることで、患者様が少しでも嬉しい気持ちになったらいいなと思っています。

Q:今後の夢や目標

今はまだ1年目で目の前の仕事をやることで精一杯なので、もっと余裕を持って仕事をこなしていけるようになりたいです。先輩方のように様々な角度から患者様を見ていけるようになりたいです。日々勉強して頑張りたいと思います！



無理せず、楽しく、目標持って！

【平成23年2月 同窓会サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

一般病棟の病院リハビリを担当しています。担当する患者様は、循環器・呼吸器・外科・神経内科・整形外科など様々です。

入院患者様だけではなく、外来も行っています。特に呼吸器外来は私が一人で担当させてもらい、大変ですがやりがいがあります。

Q:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

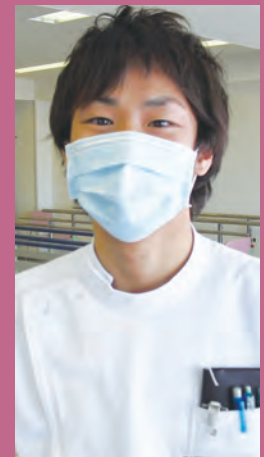
私のゼミの先生が呼吸器や循環器のリハビリが専門ということもあってか、大学時代に内部障害系に興味を持てたことが現在の仕事に影響していると思います。

Q:仕事に対するモットー

常になにかしらの目標を見つけ、それに向かって進化していくことです。与えられたことだけではなく、自分から探して行っていきます。ただ、決して無理はしすぎず、プライベートも充実させることが仕事を楽しく行うポイントだと考えています。

Q:今後の夢や目標

今はまだ自分磨きで精一杯ですが、ゆくゆくは自分がいることで、病院のリハビリ、秋葉区のリハビリが向上してほしいと考えています。



新潟勤労者医療協会 下越病院 勤務
高橋 祐介さん 2007年卒
理学療法学科

安心安全を目指して

【平成23年3月 同窓会サイトに掲載された記事より抜粋】

Q:現在携わっている仕事について

現在、作業療法士として脳卒中急性期のチームを担当しています。主に脳卒中と神経難病の患者さんを対象としていて、病気を発症して間もない時期からリスク管理をしながらベッドサイドから訓練を行っています。当院では急性期病棟から約半数の患者さんが自宅退院されるということもあり、サービス調整や在宅支援に関しても積極的に関わっています。

Q:大学での経験は、現在のお仕事に影響を及ぼしていますか？

影響しています。医療職としての勉強はもちろんのことですが、特に病院では患者さんやご家族・病棟スタッフなどと話をする機会が非常に多いので、在学中、同学科やゼミでの他学科の人との交流などが今の自分のコミュニケーション能力の基礎になっていると思います。

Q:仕事に対するモットー

急性期の患者さんは心も身体もまだ落ち着かないような状態で

す。症状も変化しやすいため、訓練の際にはリスク管理はとても重要になってきます。また、病気を発症された直後は患者さん本人だけでなく、ご家族も不安な気持ちでいっぱいだと思います。そんな中でリハビリを提供するので不安や心配を少しでも軽減できるように声かけや説明を心がけています。



財団法人 竹田綜合病院 勤務
波多 竜也さん 2010年卒
作業療法学科

在学生 による 職場訪問

理学療法学科 3年 中村 拓成さん

東京厚生年金病院

長崎 稔さん(理学療法学科 2008年卒)

平成22年12月某日、東京厚生年金病院へ先輩訪問に行ってきました。東京厚生年金病院は東京都新宿区にある総合病院です。

東京厚生年金病院には本館と別館があります。本館は主に急性期病棟で、脳血管障害や骨・関節疾患、癌疾患など幅広い疾患に対応しています。別館は脳血管障害などの方の回復期病棟、整形外科疾患の方が入院している病棟であり、1階はリハビリテーションを行うフロアとなっています。また、地域とのつながりを大切にしている病院であり、日本で初めて転倒予防教室を行ったり、夏に行われる祭りなどにも積極的に参加しています。

今回は、本学の理学療法学科の卒業生である長崎稔先輩にお話を伺わせていただきました。長崎先輩は現在、本館で急性期のリハビリテーションを担当しています。急性期リハビリテーションは様々な年齢の方や疾患を担当し、さらに服薬状況なども重要になるため非常に幅広い知識と技術が必要だそうです。また、回復期担当のセラピストの方との連携も図る必要があります。しかし、患者様にありがとうと言ってももらえる、人の人生に関わることでできる理学療法士という職業はとてもやりがいのある職業だとおっしゃっていました。理学療法士は単に知識や技術だけでなく、温かい心を持つこと、患者様自身や患者様の背景をし

かりと把握した上で様々な職種と連携して患者様を支えていかなければいけないと語ってくれました。

長崎先輩から学生生活を楽しく、友人や先生との時間を有効に使い多くのことを学んでくださいとメッセージもいただきました。また、病院では他職種との連携が必須なので他学科の学生とも積極的にコミュニケーションをとったほうがいいとおっしゃってくれました。今後は、自分も人とのつながりを大切にしていき、夢や目標に向かって全力で頑張っていきたいと思いました。

最後になりましたが、お忙しい中時間を割いて貴重なお話を聞かせてくださり本当にありがとうございました。



健康スポーツ学科 3年 田畑 雄大さん

NPO法人 希楽々

野村 理絵さん(健康スポーツ学科 2010年卒)



写真右上 野村さん

平成23年1月某日、村上市九日市の総合型地域スポーツクラブ「NPO法人 希楽々」に勤めておられる、卒業生の野村さんを訪ね、仕事内容や施設を見学させていただきました。総合型地域スポーツクラブとは、地域の人たちの体力や健康の増進、コミュニケーションを目的として設立されたもので、今回訪問させていただいた希楽々は、神林総合体育館の事務所を拠点に、たくさんのセミナーやイベント、プログラムなど様々な活動を企画、運営しているとのことでした。そして参加者でもあり、スタッフでもある地域のボランティアスタッフの方たちとたくさんの企画を作り上げてきたとおっしゃっていました。また、施設はとても充実していて、野球場や体育館、プールに多目的広場など、とても素晴らしい環境がそろっていて、その施設を活用した企画や季節に合ったイベントを開催しているとのことでした。

仕事の内容はプログラムの企画をはじめ、パンフレットの作成やスポーツの指導、大人が運動をしている間子供の面倒をみるなど、とても多岐にわたっておりとても驚きました。私の総合型地域スポーツクラブのイメー

ジは指導がメインで、こんなにたくさんの種類の仕事をするとは考えてもみなかったで、とても参考になりました。

また、仕事の中でやりがいを感じることは何ですか?と尋ねたところ、「ミスをしなにか心配だけど、日が浅くても、自分で企画や計画を立て、パンフレットやダイレクトメールを作って人を集めるなど、やりたいことを責任を持って自由にやらせてくれるところにとてもやりがいを感じる」と言っていました。実際に野村さんは満喫フェスタという食・運動・出会いを楽しむイベントを開催し、成功したときの話をしてくれて、私は話を聞いていて、自分でも一つのことを作り上げていくことの素晴らしさや大変さ、またそのような機会があれば私も参加し、一緒に作り上げていきたいと思いました。

今回訪問させていただいて、私たちが大学で勉強していることは現場ではどのような形で役に立つのか、もっと勉強が必要な部分がどこなのか考えさせられるところもあり、とてもためになる話を聞かせていただけたと思います。

最後に、忙しい中今回の機会を与えてくださった希楽々の皆さん、そしてインタビューさせていただいた野村さんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



理学療法学科

理学療法学科 助教 地神 裕史



卒業生の皆様、突然ですが来年の関東甲信越ブロック学会はどこで開催されるかご存知ですか?そうです!来年は小林量作先生を大会長に新潟の朱鷺メッセで開催されます。理学療法学科としても大会の大成功を祈念して準備を進めている状況です。皆様の参加、演題の登録、お待ちしております。卒論に手を加えた内容でも結構ですので、興味ある方は卒研ゼミだった先生に相談してみてください。またホームページも開設しましたので下記のURLからのぞいてみてください。

<http://shinsen.biz/kanblo30/>

また、本学科ではOSCEと呼ばれる客観的臨床能力試験や面接実習を行ってきました。このような学内での取り組みは実習に行った際のコミュニケーション能力の向上や、環境が変わっても自分の能力を十分に発揮するためのトレーニングに役立っています。現在では新潟市北区の地域の住民の皆様にもご協力いただきながらこの実習を行っているのですが、この取り組みが非常にユニークだということで2010.12.17付け

の新潟日報に取り上げられました。実習などで学生を指導してもらった機会があったら、今までの学生との違いを感じてもらえれば幸いです。

また、本学内に運動機能医科学研究所が新たに設置されました。今まで以上に研究施設も充実しておりますので、今後の進路に悩んでいる方や、基礎と臨床の架け橋となるような研究に興味のある方は是非大学院への進学も検討してみてください。



提供:新潟日报社

作業療法学科

作業療法学科 講師 鈴木 誠



卒業生の皆様、如何お過ごしでしょうか。私は平成21年に赴任いたしました鈴木誠と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まずは、喜ばしいお知らせです。本学科の助手として学科運営を支えてくださっております相田陽子先生が、昨年12月に男の子をご出産されました。現在、母子ともに順調にお過ごしとのことです。学生・教員一同、相田先生の復帰を心待ちにしております。次に、在学生の近況をご報告します。作業療法学科には昨春49名の新入生が入学いたしました。不安と興奮に包まれていた新入生も、先輩たちの後姿を見ながら1年間を過ごし、現在ではだいぶ落ち着きが出て参りました。二年生は評価実習、三年生は臨床実習に向けて勉強に取り組んでいます。写真は、学生が自主的に集まって評価や訓練の技術を練習している様子です。卒業生の皆様から続いております自主的な練習が、今では作業療法学科の名物となっております。四年生は、本年も国家試験の全員合格と就職の全員内定を目指し、一丸となって進んでいます。例年同様、5名程

の小グループに分かれ、日々勉強に励んでいます。

新潟へお出での節は、学科の様子を見に是非お立ち寄りくださいませ。



言語聴覚学科

言語聴覚学科 准教授 渡辺 真澄



今年度、10期生が入学し、新潟医療福祉大学は10周年を迎えました。昨年度、6期生が巣立ち、言語聴覚学科は約300名もの卒業生を世に送り出した計算になり、驚いています。

大学は教育機関であり、同時に研究機関でもあります。皆さんも2月に卒研発表を行いました。今年度から糟谷学科長の発案で10月に繰り上がりました。短期間に4年生は研究をこなしました。

言語療法は答えのないことだらけです。実際に臨床に携わってみると、わからない、もっと知識を広げたい、など様々な思いが浮かぶことでしょう。そんなときには諦めたりせず、本学科の教員に相談する、あるいは大学院に戻り、臨床で得た知識等を整理・発展させるという選択肢があります。大学院は答えに接近するための科学的な方法を学ぶ所です。本学の大学院は臨床を続けながら研究することが可能です。ぜひ挑んでみて下さい。新潟のコシヒカリは「粘り」です。

2011年10月に開催される新潟医療福祉学会は言語聴覚学科が主催し、糟谷会長、今村実行委員長が企画を練っています。普段考えていることを皆にぶつけてみる良い機会です。発表や様子見を歓迎します。後輩や教員と接して下さい。後輩も国試や実際の業務に関する先輩の経験談を聞きたいはずですよ。



義肢装具自立支援学科

義肢装具自立支援学科 助教 前田 雄



義肢装具自立支援学科では昨年4月に54名の1年生が加わり、4学年総勢192名となりました。完成年度を迎え、待望の第1回卒業生を送り出します。4年生は、昨年末に卒業論文の提出を終え、就職の内定もほぼ決まりました。初めての義肢装具士国家試験に挑むということで全員合格を目指して日々、猛勉強しています。3年生は下腿義足、義手、大腿義足の義肢授業を終え、一段落したのも束の間、2月から始まる臨床実習を控え、不安と緊張をもって準備に取りかかっています。2年生は下腿義足の製作実習を行っています。初めて切断者に対しての義足製作と言うこともあり、モデルさんとコミュニケーションのとり方や切断端に適合させることの難しさを学んでいます。また、連携基礎ゼミを通し、自身の専門職種や他職種の役割を知り、他学科の学生とグループワークをする事により問題に対しての調査や問題解決の過程により学習技能の習得や対人交流を身につけました。1年生は入学し、義肢装具製作の基礎である基本工作実習や専門分野における解剖学や運動学の修得をめざし悪戦苦闘中です。



健康栄養学科

健康栄養学科 准教授 塚原 典子



健康栄養学科の卒業生のみなさん、お元気ですか？

今回は、今年度後半の学科の活動報告をいたします。

今年度は、夏から初秋にかけて国内研修を実施しました。この研修は、1・2年生を中心に、みなさんが管理栄養士として活躍していってほしい病院や施設、企業などを見学して、管理栄養士になるための意識改革、モチベーションアップを目指したものです。今回は、サトウ食品、醤油協業組合、新潟大学歯学部、新潟大学付属病院、豊浦愛宕の園、信楽園病院的6か所の見学をさせていただきました。これらのいくつかの施設でご活躍中の卒業生のみなさんには大変お世話になりました。お陰で後輩も管理栄養士が活躍する現場に直接触れ、管理栄養士さんから貴重なお話を伺うなど、多くのことが習得できた貴重な研修となりました。“百聞は一見にしかず”でしょうか。今後も、後輩のために是非とも卒業生のみなさんのご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、今年度は、来る3月15日に7期生48名が卒業を迎えます。現役で2名が栄養教

諭に合格することもでき、皆元気にみなさんのもとに巣立っていきます。

これからも新潟医療福祉大学健康栄養学科の卒業生としての誇りを胸に、ますますのご活躍を期待しております。



健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 助教 山代 幸哉



健康スポーツ学科の卒業生の皆さん、はじめまして！昨年の4月に赴任してきました山代幸哉と申します。よろしくお申し上げます。赴任して間もない私ですが、最近、すごくうれしい話を耳にします。それは、各企業の人事担当の方々から「新潟医療福祉大学の健康スポーツ学科の学生にぜひ入社してほしい。」という要望があるという話です。なるほど、確かに健康スポーツ学科の学生は明るく、素直で、挨拶が自然にできる子が非常に多いと思います。このように今も昔もかわらない健スポの学生像が企業にも買われているのだと感じています。在学生も卒業した先輩達に引けを取らず元気に学業に課外活動に励んでいます。写真はAT実習と健康運動指導士の対策授業の様子です。

12月に健康スポーツ学科では学科のオリジナルホームページを立ち上げました。現在の健スポの様子を感じることができるとと思います。皆さんも忙しくなかなか暇もないかもしれませんが、たまには母校に顔を出してみてください。先生方が温かく迎えてくれる

と思います。これからも皆さんが活躍し、本校の誇りとなるように祈っています。



看護学科

看護学科 准教授 島貫 秀樹



卒業生の皆様、はじめまして。4月より地域・在宅看護学領域に着任しました島貫です。同じく宇田優子先生も着任し、地域看護学領域は6名の教員と学生でにぎやかに活動しています。今回は地域看護・在宅看護領域の近況を報告します。

昨年の夏は、看護学科の教員と学生で栗島浦村に行き、島の保健医療を学んできました。現地では、村の保健師さんや診療所の看護師さんから話を聞くだけでなく、実際に自分たちの足で地区踏査を行いました。猛暑の中4時間も歩き続け、最後には通りがかりの方の車に乗せていただき、無事??終了することができました。参加した学生も島の生活、歴史から保健活動を考えるよい機会になったようです。来年度の4年生の総合実習では、栗島浦村に宿泊しながら地域看護の実習も企画しています。「Think Globally, Act Locally」をモットーに、学生と教員がお互いに楽しみながら学習をしていきたいと考えています。

卒業後に保健師を目指す卒業生の皆さんも支援しますので、保健師に関心のある

方がありましたらお気軽にご連絡ください(E-mail:shimanuki@nuhw.ac.jp)。本学科のブログもありますので、機会がありましたら御覧ください(「ひよっこナース放送局」<http://nuhw.blog-niigata.net/nr/>)。



社会福祉学科

社会福祉学科 講師 渡邊 敏文



寒い日々が続いておりますが、元気でご活躍のことと存じます。さて、新潟医療福祉大学は、平成22年3月に「包括的な連携のもと、相互に協力し、北区の地域福祉の発展と人材の育成に寄与することを目的」(「新潟市北区と新潟医療福祉大学との連携に関する協定書」第1条)として新潟市北区と包括連携協定を締結いたしました。今年度は、社会福祉学科の学生もこの協定に関連する事業に参加することで大きな力を発揮しました。その具体的なこととして、障害者支援施設太陽の村・豊栄交流センタークローバーの利用者、北区役所、社会福祉協議会、民生委員児童委員連絡協議会等の皆さんと一緒に「区民アンケート」を実施しました。このアンケートの目的は、市民協働事業として、新潟市北区民が、障がい者の理解をはじめとする福祉の理解度がどの程度なのか、また、区民のニーズや課題にはどのようなことがあるのかを把握するためのものでした。併せて、アンケート調査の実施をとおして、区民に対する福祉の啓発活動にも繋げようというものです。この活動をとおして、学生は学びの場は大学

内だけでなく、地域にもあることを実感したのではないのでしょうか。これからも地域の一員として、学生も教員も学んでいくことができればと思っています。

最後に皆様のますますのご活躍を祈念しまして、社会福祉学科の近況報告とさせていただきます。



医療情報管理学科

医療情報管理学科
講師 高橋 直樹

医療情報管理学科は、2010年4月に新設され、103名もの1期生と、異動・新任併せて13名の教員が一致団結して、勢いよくスタートを切りました。

医療情報管理学科では、「医療事務・医療秘書」「医療情報」「医療経営」の3つの分野に関する幅広い科目を配置し、学生個々の将来像に対応する多様な履修モデルで、メディカルクラークや診療情報管理士などの医療事務・秘書関連資格や、医療情報技師など医療情報関連資格の取得を目指し、質の高い医療サービスを支えるスペシャリストを育成することを目的としています。

医療情報管理学科の最初の卒業生を送り出すのは、2014年3月ですが、人々のQOLをサポートするという観点

から、新潟のみならず日本全国、いや、世界で活躍できるような人材を育成していきたいと思っています。

同窓生の皆様におかれましても、お元気でご活躍のことと思いますが、是非とも本学の同窓生としての誇りを持ち続けるとともに、今後とも、多職種連携の根幹をなす「絆」をいつまでも大切にして頂きたいと思います。



新設学科紹介

今春
新設!医療技術学部
臨床技術学科

日本で唯一、卒業時に臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家試験受験資格を同時取得するカリキュラムを配置し、学生全員でダブルライセンスを目指します。各専門職の高度な知識・技術を段階的に学ぶことができるだけでなく、それぞれの専門性の違いや連携について、また、それらを効果的に結び付ける手法を学ぶことで、ダブルライセンス取得者として独自のスキルを身につけることができます。高度化が進む医療現場において、医師のサポート役として従来の資格の垣根を越えてより幅広い業務に対応することができる「臨床技術者」の育成を目指します。



研究室Now!

経頭蓋直流電流刺激を用いた 感覚運動連関に関する研究

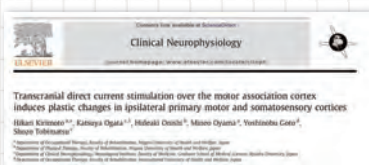
作業療法学科 講師 桐本 光



私は7期生と共に2007年に本学に入職しました。その当時から行っていた研究成果がようやく彼らの卒業年度に実を結び、神経生理学分野の学術誌Clinical Neurophysiologyに掲載されることになりました。しかも、どういうわけか分かりませんが、Editorialという巻頭コーナーで、注目すべき論文として取り上げられるという珍事まで起きてしまいました。この場で、私の実験の被験者をしてくれた卒業生の方々と共にこの喜びを分かち合うことができたら嬉しうございます。

経頭蓋直流電流刺激(Transcranial direct current stimulation: tDCS)は、頭皮上に電極を設置し、微弱な直流電流で10-15分間刺激することにより、大脳皮質の機能を興奮性または抑制性に変化させる手法です。被験者に痛みを与えることのない、非侵襲的な脳機能探索ツールとして注目を集めています。これまでの研究対象は、電極直下の脳部位の機能変化に関するものが大半でしたが、今回の私たちの研究では、ヒトの運動連合野の機能をtDCSによって変化させた時、その効果が一次運動野と体性感覚野にも及ぶことを明らかにしました。欧米では、脳卒中患者の感覚運動機能や認知機能の回復をtDCSにより促進する治療が始まっています。臨床応用に興味のある方からのご連絡、お待ちしております。

kirimoto@nuhw.ac.jp



骨粗鬆症予防のための調査研究

健康栄養学科 教授 斎藤トシ子



卒業生の皆様、お久しぶりです。私の研究の被験者になってくださったPT、OT、ST、HN、SW学科の1期生及び研究のアルバイトをしてくださった皆様には改めて感謝申し上げます。

私たち研究グループ(新潟大学医学部及び当大学理学療法学科の教員)は、この10年間、当大学生、豊栄、村松、横越地区の方々にご協力いただき、骨粗鬆症予防に関する疫学研究を行ってきましたが、「カルシウム(Ca)摂取量を増加すると骨粗鬆症を予防できるか?」、そうであれば「どの程度のCaが必か?」を明らかにすることはできませんでした。これは、Ca摂取量を測定するのが難しい、Caを多く摂る人は、食事のバランスもよく、運動する傾向にあることなどから、疫学調査だけで、Caの骨への影響を正確に調べるのが難しいためです。

そこで私たちは、平成20~22年の2年間にわたり、新潟県内50~74歳女性450名にご協力いただき、以下のカルシウムくじ引き介入試験(ランダム化比較試験: RCT)を行い(図1)、現在、結果を解析しているところです。

- 1) 炭酸Ca剤 (Ca 250mgを含む) を毎日服用するグループ
- 2) 炭酸Ca剤 (Ca 500mgを含む) を毎日服用するグループ
- 3) プラセボ (Caを含まない錠剤) を毎日服用するグループ

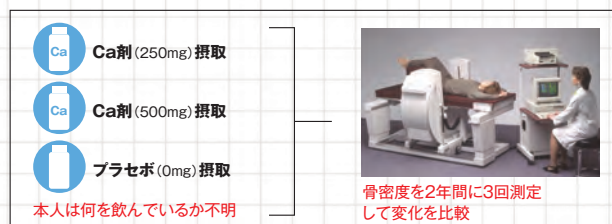


図1. ランダム化比較試験RCTのイメージ

私たちは、国立がん研究センターなどとも連携し、今後も、生活習慣病と食事、運動、遺伝要因との関係に関する研究を進め、人々の健康の保持・増進、疾病予防に貢献したいと考えています。

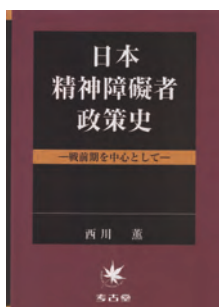
書籍紹介

看護学科 西川薫先生のおすすめの一冊!

「日本精神障害者政策史」

本書は、明治維新から第二次世界大戦終結までの期間(1868~1945年)を対象に精神障害(しやうがい)者政策に着目しました。その中で戦争という特殊な時代背景において一般精神障害者と傷痍軍人精神障害者に区分し、対照的な政策として並存させた意図の解明を試みました。

戦前日本の一般精神障害者政策は社会に危害を加える可能性のある存在として捉え実施されていました。一方、傷痍軍人精神障害者政策は国家を守るために傷ついた存在として保護的に実施されていました。政府がかくも対照的な精神障害者政策を並存させた意図には国家への貢献を基準に一般精神障害者を「悪者」、傷痍軍人精神障害者を「善者」と単純化し、国民の不満等を「悪者」に掛け負わせることで「問題のすり替え」と「政府の求心力の強化」を狙ったものと考えられます。



図書館からのおすすめの一冊!

「人を助けるとはどういうことか」

エドガー・H・シャイン著 英治出版 2009年

「〇〇にはどのように行けばいいですか」と見知らぬ人に尋ねられたとき、皆さんはどう答えますか?

さて、世の中には周りの人を支援するのがうまい人、支援をもらい生かすのがうまい人が存在する一方で、一人よがりの支援があまりに多いと言われていて、どのようにふるまうのが相手にとって最もヘルプか?

本書では冒頭の質問にあるような日常生活だけではなく、医療現場で参考になるであろう「支援の基盤」にある考え方を提示してくれています。筆者によれば「支援とは人間関係の基本。ときには態度であり、行動であり、スキルであり、社会生活を送るに際して不可欠な要素である」とのこと。専門職として働く皆さんにこそ読んでもらいたい1冊です。





台湾・弘光科技大学と友好協定締結、 記念学術セミナー開催

8月10日(火)、台湾の中部にある弘光科技大学と本学の間で、大学間友好協定に関する締結式が行なわれました。

弘光科技大学は1967年に看護専門学校として創設され、2003年に現在の大学組織になりました。在学生1万2千人、6学部27組織を有する、台湾有数の医療福祉健康・工学・人文社会系の私立大学です。

締結では、教育／研究分野を共同で推進し、将来的には学生交換や教員研修などを見据えて友好を深めて行くことが確認されました。

また、8月21～22日、弘光科技大学にて、「友好協定締結記念学術セミナー」が開催されました。

1日目は本学義肢装具自立支援学科の阿部薫准教授による「足部疾患に対応した足底装具療法」と題した講演を行い、2日目の実技セミナーでは、採型、足底装具の製作、足底圧分布測定装置を用いての評価など、最新の機器と技術を紹介しました。



フィリピン共和国・アンヘレス大学財団との 国際交流に関する覚書を締結

8月18日(水)、本学とフィリピン共和国アンヘレス大学財団との間に、国際交流に関する大学間覚書を締結いたしました。

アンヘレス大学財団は、1962年に設立され、1971年には教育、文化、スポーツ省によって大学として認可、1975年に大学は非株式・非営利教育財団に変わりました。設立48年を迎える現在では、アンヘレス大学財団はフィリピン国内において、大学院の学位を持つ教員数の割合が高く、質の高い教育と研究の基盤となっております。さらに最新技術の器材と施設の設置により、63もの一般教養教育プログラムのある大学となっております。

調印式では本学学長 山本 正治、アンヘレス大学学長 Jpseph Emmanuel Lukban Angels(ヨセフ・エマニュエル・アンヘレス)氏よりご挨拶を頂き、その後、覚書に調印が行われました。

覚書には、質の高い教育と研究の実現に向けて、教員開発(FD)・共同研究・情報交換・学生交流プログラムに関する内容が示され、両大学の更なる交流が期待されます。



音楽療法国際ミニシンポジウム開催

11月18日、本学キャンパスにて「音楽療法国際ミニシンポジウム～認知症高齢者のための音楽療法～」が開催されました。

音楽療法とは、音楽を聴いたり演奏したりする際の生理的・心理的な効果を応用して、心身の健康の回復、向上をはかる行為で、健康な方や病気を患われている方など様々な健康レベルの方に、保健・医療・福祉・教育の現場で幅広く行われています。

今回は、昨年に引き続きアメリカ音楽療法協会認定音楽療法士・サリー音楽療法センター所長のアラン・ウィッテンバーグ先生をお招きし、講演や実技を通して音楽療法への理解を深め、発展させることを目的に開催されました。

本学の看護学科の4年生の英語によるレポート発表があり、その後、アラン先生からの講演と参加者を被験者とした実技や、楽器を実際に演奏する実技などを披露して頂き、非常に有意義なシンポジウムとなったようです。

今回のシンポジウムを通して、参加者らは音楽療法のもつ大きな可能性を感じ取ることができました。



ロシア・ハバロフスク極東 総合医科大学との大学間交流

10月20日～10月27日の間、本学理学療法学科の教員がロシア・ハバロフスク極東総合医科大学との大学間交流を行いました。

本学と医科大学は、平成18年9月に国際交流に関する協定書(5年間効力を有する)を締結しており、これまで本学看護学科との間で積極的な交流活動を行って来ました。

今回の訪問は、交流の更なる発展を目指し本学理学療法学科と医科大学「理学療法・医学的リハビリテーション学科」との関係を築くことや極東地域における医療事情について情報を得ることを目的に、本学理学療法学科より久保教授、古西准教授が参加いたしました。

医科大学は、1930年に創設され、現在では学生数2,000名以上、教員600名以上、事務職員300名以上の規模を誇る極東地域の医学の中心地となっており、本学を含む日本の大学との交流経験も豊富な大学です。

今回の訪問をもとに、締結した国際交流に関する協定書が延長され、今後も学生・教員がお互いに学ぶ機会を得られることを期待しています。





国際協力機構（JICA）「生活習慣病予防対策」研修実施

本学では、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）の要請を受け、平成22年10月15日～11月12日（金）の29日間に渡り、大洋州諸国から研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修を実施いたしました。

近年大洋州諸国では、生活習慣病による疾病・死亡率が著しく増加し、国家レベルでの対策が行われています。JICAではこのような状況を受け、政府開発援助（ODA）の一環として、生活習慣病予防指導の計画立案・普及のできる人材育成を目的とした「大洋州における地域保健での生活習慣病予防対策コース」を企画し、本学はその研修実施機関として選定されたため、昨年度から3か年計画で研修員の受け入れを行っています。

今年で2回目となる今回の研修では、ソロモン・フィジー・マーシャル・トンガより地域看護師5名が研修員として来学し、栄養・運動・看護の分野に関わる様々な研修プログラムを実施いたしました。今年度は禁酒・断酒に関する講義も加え、学外研修も研修員の意向で地域に密着している病院の視察を行うなど、より充実した内容であったため、研修員からは勿論、JICAからも大変実践的で実のある研修だったと高い評価をいただきました。

また、研修プログラム以外においても、新潟市・新発田市内観光や、サッカー観戦、在学生及び新潟在住の青年海外協力隊OBとの交流会もあり、国際交流という観点からも大変充実した日々を過ごすことができたようです。



Hugh Barr教授による「IPEの国際的展開」講演会開催

8月9日、新潟医療福祉大学において、英国CAIPE（英国連携教育推進センター）センター長のHugh Barr教授をお迎えして講演会が開催されました。

Hugh Barr 教授は英国ウェストミンスター大学において社会福祉学の教授であり、専門であるソーシャルワークにとどまらず、現在英国CAIPE（連携教育推進センター）センター長として、世界の連携教育の指導的役割を果たしています。

講演会は「専門職間連携教育（IPE）の国際的展開」というテーマで講演され、本学教職員をはじめ、IPEに関心を持つ新潟県内の複数の大学関係者を含め、約30名の参加がありました。また当日は、戦略的連携支援事業の連携校4大学に加え、県内の他大学に対しTV会議システムによる実況中継が行われました。

Hugh Barr教授の豊富な経験に基づいた話は、専門職間連携教育の国際的展開について非常に有意義な内容であり、参加した各大学の連携教育の発展に貢献しうる充実した講演会となりました。



Scott Reeves准教授による講演会を実施

12月2日、カナダトロント大学ウィルソン研究センターよりスコット・リーブズ准教授を招聘し、「カナダにおける専門職間連携教育～その歴史と未来～」と題した講演会を実施しました。

会場となった新潟医療福祉大学には、本学教員や学生をはじめ、戦略的連携支援事業の連携大学教員ら31名が参加し、またTV会議システムにより札幌医科大学の教職員5名が参加しました。

講演では、カナダにおけるIPE/IPWの歴史を概観し、現状と今後の課題が簡潔に報告されました。IPE/IPWの先進国といえども事情は複雑であり、IPEが専門教育よりも下位のものと認識されている点、教員の授業負担、教員のFDの必要性、予算配分の問題などが今後の課題として示され、日本におけるIPEの発展において、大変示唆に富んだ、貴重な講演となりました。



TOPIC
1高橋榮明名誉学長が
瑞宝中綬章を受章

11月3日、本年度の秋の叙勲の受章者が発表され、本学の高橋榮明名誉学長が「瑞宝中綬章（ずいほうちゅうじゅしょう）」を受章されました。瑞宝中綬章は、国家または公共に対し功労のある方のうち、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方へ授与されます。

高橋名誉学長は、平成13年4月に本学の初代学長に就任以来、平成22年3月の退任にまで「優れたQOLサポーターの育成」を建学の理念に現在の新潟医療福祉大学の礎を築いてこられました。

また、整形外科医としての経験から、患者・対象者等のQOLを支えるためには保健・医療・福祉専門職の連携が不可欠であることを強く提唱し、平成20年には日本保健医療福祉連携教育学会を設立、さらに、平成21年には高橋名誉学長が中心となって策定された「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」が、文部科学省 平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択されるなど、日本における多職種間連携教育の普及にも大きく貢献されました。

TOPIC
2渡辺 敏彦副学長
「私立学校審議会委員功労者
文部科学大臣表彰」

10月21日ヒルトン東京において、文部科学大臣より本学副学長 渡辺 敏彦教授が「私立学校審議会委員功労者 文部科学大臣表彰」を表彰されました。

私立学校審議会委員功労者表彰とは、私立学校審議会委員として、私立学校審議会の運営に関し特に功労顕著な者の功労をたたえ文部科学大臣が表彰するもので、新潟県では本学副学長を含め元新潟県教育委員会委員長など4名が表彰されています。

渡辺副学長は、平成2年9月7日より現在に至るまで20年以上の長きに渡り新潟県私立学校審議会委員をつとめられ、私立学校の発展に寄与されてきました。

TOPIC
3「就職に強い大学2011」で
2010年就職率
ランキング第3位に!!!

(読売新聞社)

7月17日に読売新聞社より発行された『就職に強い大学2011』の大学別就職率ランキング(※1)において、新潟医療福祉大学の就職率が、就職決定者数300人以上の225掲載大学中(※2)第3位にランキングされました!!

特集記事内では、2001年に開学し比較的历史の浅い大学である本学が上位にランキングされていることについて、“人手不足感の強い、医療・福祉系の人材を輩出している”(同誌10ページより抜粋引用)という点に加え、“大学側の就職支援に対する意識の高さ”(同10ページより抜粋引用)が就職率に結びついているとの分析が掲載されています。

新潟医療福祉大学では、学生個々に対する決め細やかな就職支援を大学全体で組織的に実践し、毎年、高い就職実績を達成しています。また、単なる資格取得だけに留まらず、他学科とともに学ぶ連携教育や、地域活動との連携、クラブ・サークル活動の充実化など特徴的な教育を推進し、社会人としての高い資質を備えた人材育成を行っています。

大学では今回の第3位という結果について、こうした取組みが広く社会から評価をいただいた結果であると嬉しく思うと同時に、今後も社会に求められる人材育成に全力で取り組んでまいります。

※1 就職決定者数÷(卒業生数－大学院進学者数)×100で算出。
※2 掲載は2010年5月末日までに回答が寄せられた国公私立大学。

TOPIC
4運動機能医科学研究所チームが
早くも快挙達成!

11月1日、本学キャンパスに「運動機能医科学研究所」が開所されました。

運動機能医科学研究所は、ヒトの感覚機能や運動機能および運動器障害を研究・解明する拠点として、本学キャンパス第5研究棟一階に設置され、その成果は様々な運動に関連する障害の予防と最良の治療法を開発することにつながると考えられます。

その「運動機能医科学研究所」のメンバーが早くも快挙を達成しました。研究論文が神経生理学分野で権威のあるClinical Neurophysiology誌に2本採択され、さらに、それぞれがEditorialという巻頭コーナーで、注目すべき論文として取り上げられました。

論文タイトル

"Muscle-afferent projection to the sensorimotor cortex after voluntary movement and motor-point stimulation: An MEG study."

初代研究所長に就任した理学療法学科長の太西教授、作業療法学科長の大山教授らの研究では、生体磁気計測装置(Magnetoencephalography: MEG)を用いて、ヒトが運動する時に筋が収縮したという感覚情報が脳皮質感覚運動野のどの部位で処理されているのかを明らかにしました。

論文タイトル

"Transcranial direct current stimulation over the motor association cortex induces plastic changes in ipsilateral primary motor and somatosensory cortices."

作業療法学科の桐本講師、理学療法学科長の太西教授、作業療法学科長の大山教授らの研究では、ヒトの運動連合野の機能を経頭蓋直電流刺激(Transcranial direct current stimulation: tDCS)によって変化させた時、その効果が一次運動野と体性感覚野にも及ぶことを明らかにしました。



TOPIC
5

言語聴覚学科:第34回日本神経心理学会報告

2010年9月9日～10日の2日間、京都市の京都大学百周年時計台記念館で『第34回日本神経心理学会』の学術集会が開催されました。記憶、言語、聴覚・視覚認知、行動など、認知機能とその障害の研究における中心的な存在である神経心理学会では、今年も多数の講演やセミナー、シンポジウムが行われたほか、約100題におよぶ研究発表が行われました。

言語聴覚学科の卒業生たちがこの学会で研究発表を行うのも、もうすっかり毎年の恒例となりました。今年も学科教員の指導を受けて、本学卒業生では2期生2名(伊勢可奈子『小脳出血後に発動性低下、遂行機能障害を呈した一例』、北村葉子『Logopenic/phonological variant of primary progressive aphasia (LPA) の一例』)と6期生6名(丸山志織『書字時に右手が「思ったのと反対に動く」と訴えた脳梁幹後端・膨大後部白質を含む右側頭後頭葉内側梗塞の一例』、清水志帆『Self-care rating for dementia, extended (SCR-DE): 遂行機能障害を反映した認知症患者のセルフケア障害評価法の信頼性の検討』、佐藤亜紗美『Self-care rating for dementia, extended (SCR-DE): 遂行機能障害を反映した認知症患者のセルフケア障害評価法の妥当性の検討』、浅井慈子『アルツハイマー病において極めて緩徐な進行を示す一群もの忘れ外来における検討』、飛田靖人『レビー小体をともなう認知症 (DLB) とアルツハイマー病 (AD) における認知機能変動の検討』、阿部浩之『アルツハイマー病における取込型closing-in現象の

検討』が臨床研究の発表を行いました(写真上)。発表後は質問に丁々発止で受け答えしたり、それまでは教科書の著者としてしか知らなかった高名な先生と自分の研究発表のポスターの前で議論したり……学会は若い臨床家、若い言語聴覚士がさらに大きく育っていく場でもあります。

そして学会に参加した教員、卒業生、大学院生と学部3、4年生は、みんなで京都の夜を満喫していました(写真下)

TOPIC
6

第10回新潟医療福祉学会報告



(10周年記念講演 山本正治学長)



(特別講演木竜先生(右)と大会長大西先生)

去る、10月30日(土)、「ライフ・イノベーション」というメインテーマで、第10回学術集会が本学会を会場に盛大に開催されました。大会の運営には大会長の太西秀明学科長をはじめ、理学療法学科の教員が一丸となって準備をしてまいりました。

今回は、学会員を中心に過去最高の約200名が参加し、盛大に開催されました。開会式の後、山本正治学長による10周年記念講演があり、今後の予防医学をライフ・イノベーションという視点からどう考えていけばよいか、大変貴重なお話を聞くことができました。

本年度は一般口述発表・ポスター発表とも演題数が増え、自分の関係する分野のみならず他分野の発表も聞くことができ、活発な意見交換がなされ

ていました。本学の大学院生や学外の病院や施設の先生方による発表も多数あり、本学会が規模も徐々に大きくなり対外的にも認知されてきた印象をもちました。

午後の特別講演では、新潟大学大学院・電気情報工学専攻教授の木竜徹先生にお越しいただき、「自分にふさわしい運動をいつでもどこでも」と題してご講演いただきました。最新の機器とヒトの運動の融合を目指す先生の研究にこれからの日本の医療問題を解決するためのヒントが数多く隠されていて、大変刺激的なご講演でした。

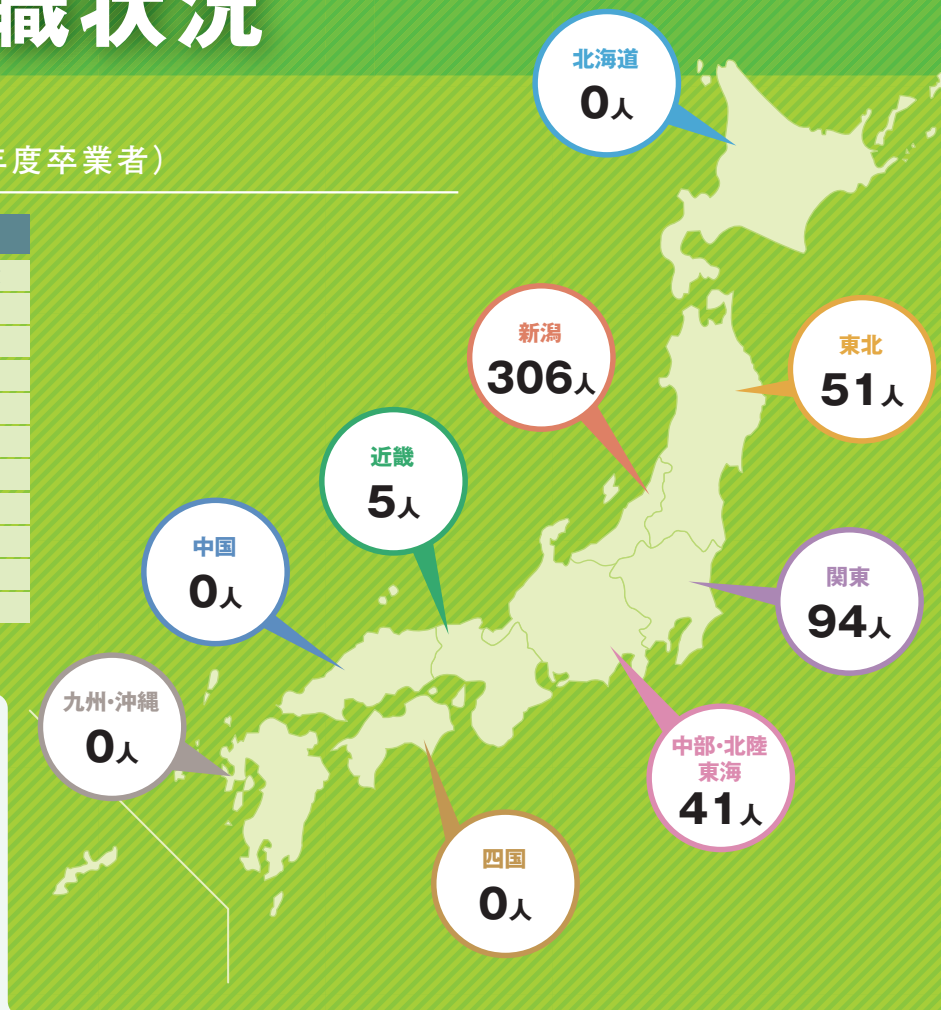
特別講演に続いて「ライフ・イノベーションを支えるスーパー専門職」と題するシンポジウムが行われました。本学健康スポーツ学科の西原康行先生が座長となり、様々な医療・福祉などの職種が抱える問題点とそれを解決するために必要な制度や方法をフロアも交えてディスカッションすることができ、それぞれの分野が高度に専門化していくことの重要性を再確認することができました。

閉会式では本年度より創設された学会会頭賞、学会奨励賞の表彰式が行われました。受賞者を代表して新潟リハビリテーション病院作業療法士、佐藤大樹先生からスピーチをいただきました。本学会が臨床と研究の架け橋として重要な位置づけであり、臨床現場の先生方にとっても意義のある学会であることを実感できました。

卒業生の就職状況

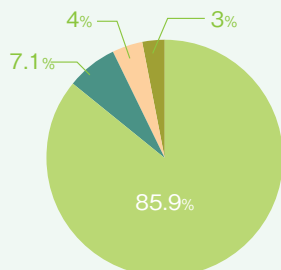
地域別就職者（平成21年度卒業者）

平成21年度生県別就職先			
都道府県	人数	都道府県	人数
青森	1	神奈川	11
秋田	9	新潟	306
宮城	5	長野	21
山形	14	山梨	2
福島	22	富山	8
栃木	5	石川	8
群馬	13	福井	1
埼玉	23	静岡	1
東京	32	大阪	4
千葉	10	兵庫	1



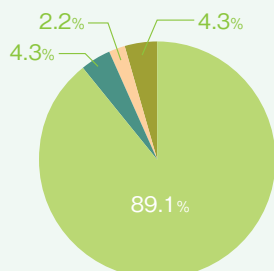
理学療法学科

■ 病院
■ 診療所・クリニック
■ 老人保健施設
■ 老人福祉施設



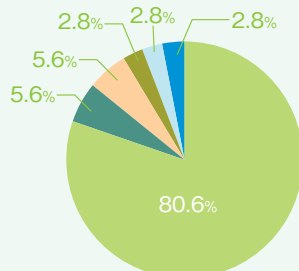
作業療法学科

■ 病院
■ 老人保健施設
■ 老人福祉施設
■ 障害者施設



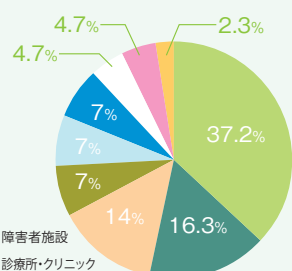
言語聴覚学科

■ 病院
■ 老人保健施設
■ 一般企業
■ 老人福祉施設
■ 福祉系企業
■ 公務員・団体



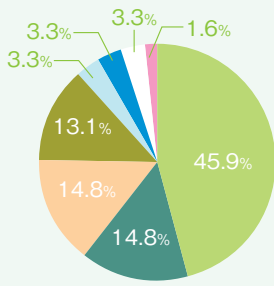
健康栄養学科

■ 委託給食企業
■ 病院
■ 公立学校
■ 老人保健施設
■ 公務員・団体
■ 一般企業
■ 障害者施設
■ 老人福祉施設
■ 診療所・クリニック



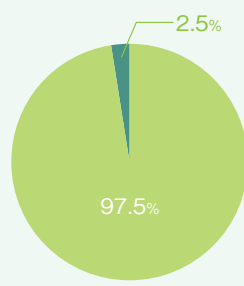
健康スポーツ学科

■ 一般企業
■ 公立学校
■ スポーツ関連施設
■ 公務員・団体
■ 診療所・クリニック
■ 老人福祉施設
■ 老人保健施設
■ 福祉系企業



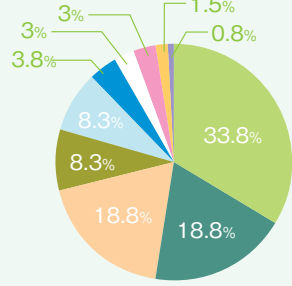
看護学科

■ 病院
■ 診療所・クリニック



社会福祉学科

■ 老人福祉施設
■ 障害者施設
■ 一般企業
■ 病院
■ 公務員・団体
■ 福祉系企業
■ 児童施設
■ 老人保健施設
■ 社会福祉協議会
■ スポーツ関連施設



医療法人・医療法人社団・社会医療法人・特定医療法人

【新潟】(医)愛広会/(医)青山信愛会新潟信愛病院/(医)公仁会柏崎中央病院/(医)社団KOSMIこん整形外科クリニック/(医)真仁会南部郷総合病院/(医)関塚医院/(医)徳真会グループ/(医)愛仁会亀田第一病院・介護老人保健施設亀田園/(医)越南会/(医)恵生会南浜病院/(医)敬成会白根緑ヶ丘病院・介護老人保健施設常盤園/(医)社団しただ/(医)社団健進会新潟医療センター病院/(医)社団竹内会介護老人保健施設ヴィラ管谷/(医)社団白美会白根大通病院/(医)潤生会阿賀野病院/(医)新潟勤労者医療協会下越病院/(医)新成会会総合リハビリテーションセンターみどり病院/(医)仁愛会介護老人保健施設千歳園/(医)積発堂富永草野病院/(医)白日会黒川病院/(医)立川メディカルセンター悠遊健康村病院/(社会医)桑名恵風会桑名病院/(社会医)嵐陽会三之町病院/特定財団(医)至誠会【東北】(医)明和会中通リハビリテーション病院/(医)社団三成会南東北春日リハビリテーション病院/(医)社団博英会かねこクリニック/(医)社団平成会/(医)秀公会あづま脳神経外科病院/(社団医)養生会かしま病院/(医)将道会総合南東北病院/(医)松田会松田病院/(医)篠田好生会篠田総合病院/(特定医)社団みゆき会【関東】(医)社団総生会/(医)中村会/(医)社団三思会東邦病院/(医)島門会本島総合病院/(医)日望会みどり病院/(医)龍邦会東前橋整形外科/(社会医)輝城会沼田脳神経外科循環器科病院/(医)イムス富士見総合病院/(医)明理会埼玉セントラル病院/(医)真正会霞ヶ関病院リハビリテーションセンター/(医)葦の会石井クリニック/(医)敬愛会リハビリテーション天草病院/(医)三愛会埼玉みさと総合リハビリテーション病院/(医)至仁会圏央所沢病院/(医)至誠堂至誠堂整形外科/(医)社団愛友会上尾中央総合病院/戸田中央医科グループ/(医)新医療会明生リハビリテーション病院/(医)社幸会行田総合病院/(医)社団輝生会船橋市立リハビリテーション病院/(医)社団紺整会船橋整形外科病院/(医)社団鎮誠会季美の森整形外科/(医)社団南洲会勝浦整形外科クリニック/(医)鉄蕉会亀田メディカルセンター/(医)財団河北総合病院/(医)社団輝生会初台リハビリテーション病院/(医)秀匠会わさざわ整形外科/(社会医)社団健生会立川相互病院/(医)しらさぎ会上三川病院/(社会医)博愛会菅間記念病院【甲信】(医)社団中信勤労者医療協会松本協立病院/(医)青樹会一之瀬脳神経外科病院/(社会医)財団慈泉会相澤病院/(医)財団加納岩山梨リハビリテーション病院/(医)慈光会甲府城南病院【北陸】(医)社団映寿会映寿会みらい病院/(医)社団勝木会やわたメディカルセンター/(医)社団浅ノ川金沢脳神経外科病院/(医)アルペン会アルペンリハビリテーション病院/(医)健康会嶋田病院【東海】(医)社団綾和会浜松南病院【近畿】(医)大道会森之宮病院・ポバース記念病院/(社会医)若弘会/(医)社団甲有会ケアハウスたいよう/(医)社団淡路平成会東浦平成病院

社団法人・財団法人

【新潟】(社)新潟県労働衛生医学協会付属岩室温泉病院【東北】(社)慈恵会青森慈恵会病院/(社)鶴岡地区医師会湯田川温泉リハビリテーション病院/(財)三友堂病院/(財)温知会会津中央病院/(財)太田総合病院/(財)竹田総合病院/(財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院【関東】(社)群馬県医師会沢渡温泉病院/(財)榛名荘/(財)脳血管研究所美原記念病院/(財)神奈川県警友会けいゆう病院/(財)厚生年金事業振興会湯河原厚生年金病院/(財)自治医科大学協栄会【北陸】(社)石川勤労者医療協会城北病院

診療所・クリニック

【関東】かみもとスポーツクリニック/アレックスグループ都立大整形外科クリニックスポーツ関節鏡センター/増本整形外科クリニック/おざさ医院【甲信】(学)太田アカデミー附属軽井沢リハビリテーションクリニック

大学法人・学校法人・団体・組合

【新潟】国立大学法人新潟大学新潟大学医学総合病院/(学)新潟総合学園新潟医療福祉大学/新潟医療生活協同組合木戸病院/西浦原福祉事務組合/JA共済連/JA中条/JA柏崎/JA新潟県厚生農業協同組合連合会【東北】庄内医療生活協同組合鶴岡協立リハビリテーション病院/福島医療生活協同組合わたり病院/JA秋田県厚生農業協同組合連合会/国立大学法人東北大学病院/日本赤十字社秋田県支部秋田赤十字病院【関東】(学)埼玉医科大学埼玉医科大学病院/(学)東邦大学医療センター(学)順天堂大学医学部附属練馬病院/(学)東京女子医科大学病院/(学)昭和大学病院/(学)北里学園北里大学病院/公立大学法人横浜市立大学/社会保険船橋中央病院総合病院/国保中央病院/国家公務員共済組合連合会虎の門病院【甲信】岡谷市病院事業市立岡谷病院/長野医療生活協同組合長野中央病院/JA長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院/JA長野県厚生農業協同組合連合会鹿教湯三才山リハビリテーションセンター【北陸】日本赤十字社金沢赤十字病院/JAみな穂【東海】(学)順天堂順天堂大学医学部附属静岡病院

社会福祉法人

【新潟】(福)愛宕福祉会/(福)恩賜財団済生会済生会新潟第二病院/(福)新潟市社会事業協会信楽園病院/(福)えちご府中会介護老人保健施設国府の里/(福)新潟市有明福祉事業協会救護施設有明荘/(福)健周福祉会特別養護老人ホーム江東園/(福)坂井輪会特別養護老人ホーム穂波の里/(福)桜井の里福祉会/(福)小千谷北魚沼福祉会/(福)松波福祉会特別養護老人ホームよねやまの里/(福)人と緑の大地特別養護老人ホームすずらんの園/(福)中蒲原福祉会/(福)長岡三古老人福祉会/(福)長岡福祉協会/(福)さくら園/(福)つばめ福祉会/(福)にいがた寿会/(福)えちご府中会/(福)すこやか福祉会身体障害者療護施設かたくりの里/(福)たいよう福祉会たいようSOCIOセンター/(福)とよさか福祉会/(福)のぞみの家福祉会知的障害者更生施設緑風園/(福)上越福祉会/(福)新潟みずほ福祉会/(福)新潟市中央福祉会/(福)新潟太陽福祉会知的障害者更生施設太陽の村/(福)新潟地区手をつなぐ育成会/(福)中越福祉会みのわの里/(福)中東福祉会/(福)新潟市社会福祉協議会/(福)新潟市社会福祉協議会/(福)南魚沼福祉会/(福)いじみの福祉会陽だまり苑/(福)新潟市社会事業協会特別養護老人ホーム有明園/(福)仁成福祉協会新潟新生園/(福)新潟カリタス会聖母愛児園【東北】(福)いずみ会特別養護老人ホームリンデンバウムいずみ(福)雄勝福祉会平成園(福)白河学園(福)恩賜財団済生会山形済生病院(福)かたばみ会特別養護老人ホームかたばみ荘【関東】(福)さしの会藤野さつき学園/(福)恵仲会/(福)熊谷福祉会介護老人保健施設はなぶさ/(福)浴光会国分寺病院/(福)信愛報恩会信愛病院/(福)二葉保育園児童養護施設むさしが丘学園【東海】(福)サンビジョン【近畿】(福)聖徳会岩田記念診療所

公務員・独立行政法人

【新潟】新潟県職員(理学療法士・管理栄養士・看護師)/新潟県公立学校教員/新潟市幼児こばとこころの相談センター/阿賀野市職員(栄養士)/三条市職員(行政職)/新潟県警察本部/新潟市職員(福祉行政)/新潟県あけぼの園/新発田地域広域事務組合消防本部/聖籠町職員(行政職)/阿賀町立鹿瀬小学校/五泉市教育委員会/佐渡市立羽茂中学校/三条市小中学校特別支援学級/上越市立大島中学校/新潟県立燕中等教育学校/新潟県立小出高等学校/新潟県立長岡工業高等学校/新潟県立直江津中等教育学校/新潟県立柏崎工業高等学校/長岡市立栖吉中学校/柏崎市立剣野小学校/新潟市民病院/新潟県立新発田病院(栄養士)/(独)国立病院機構新潟中央病院/(独)労働者健康福祉機構燕芳災病院【東北】秋田県警察臨時職員/(独)国立病院機構いわき病院【関東】防衛省陸上自衛隊/横浜市立みなと赤十字病院/宇都宮市冒險活動センター/群馬県立病院(キャリア・アップ実務研修生)/(独)国立病院機構関東信越ブロック/(独)国立がんセンター中央病院/(独)国立精神・神経センター病院/(独)国立病院機構横浜医療センター【甲信】岡谷市病院事業市立岡谷病院【北陸】富山市職員/砺波市医療職員(市立砺波総合病院/富山市医療職員(言語聴覚士)/七尾鹿島広域圏事務組合公立能登総合病院

株式会社

【新潟】(株)はあとふるあだご/(株)マイステルジャパン/(株)メディカルケアバンク/石本商事(株)/ドラッグトップス(株)星光堂薬局/(株)ウオロク/(株)トップカルチャー/(株)北越ケース/原信ナルスホールディングス(株)/(株)汐彩フーズ/中越運送(株)/(株)大光銀行/(株)シマキウ/マルス蒲鉾工業(株)/(株)雪国まいたけ/(株)アークベル/新潟総合警備保障/(株)アクセスビギン/モリス青山(株)セブンスポーツ新津/(株)アクアシガータ/(株)アクティス/(株)新潟ビルサービス/(株)スプリックス/(株)アルビレックス新潟/丸新グループ/県央マッチボックス【東北】(株)ユースポーツライフ【関東】東日本旅客鉄道(株)JR東日本/三国コカ・コーラボトリング(株)/ハーベスト(株)/(株)新エネルギー開発エンジニアリング/(株)シダー/(株)やまねメディカルデイスサービスセンターなごやか/(株)グリーンハウス/(株)メフォス/(株)メディセオ/(株)セイジョー/(株)綱ハ/リコー販売(株)/(株)マリンハン/(株)ワクス・エンタープライズ/(株)カワチ薬品/ドンキホーテ/文教センターアスリー【甲信】日清医療食品(株)中部支店/郵便事業(株)信越支社/(株)布山工務店(アンテロープ塩沢)【北陸】(株)クスリのアオキ/(株)アミダ/(株)ティライフ/北酸(株)

有限会社

【新潟】(有)Wワークスリハブ・サロンDOO/(有)ナカノ在宅介護施設梅の実

平成22年度大学近況

入学式

2010年
4月

4月7日、第10回入学式が新潟市の朱鷺メッセで挙行されました。2001年4月の開学以来10年目の節目を迎え、山本正治新学長のもとで、4学部9学科760名の新生が未来への期待を胸に、第一歩を踏み出しました。

医療経営管理学部
医療情報管理学科 新設

医療情報管理学科では“医師不足”の課題解決に向けて高い注目を集める「メディカルクラーク/ドクターズクラーク（医療事務・秘書分野）」の育成を軸に、電子カルテやオーダーリングシステムの導入など、“医療のIT化”を推進する「医療情報分野」に精通した人材の育成を目指します。

2010年
4月

豊栄駅前サテライトキャンパス開設

2010年
7月

7月3日にJR豊栄駅前に北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス「NEW街の駅」が開設しました。今後は、本学学生が企画する催しものや、ボランティア・サークルの活動拠点として、地域の児童・障害者・高齢者などの方々の他世代の交流の場として、さらなる発展を目指していきます。是非、お気軽にお立ち寄りください。



オープンキャンパス開催

オープンキャンパス2010が開催されました。2011年4月新設となる「臨床技術学科」を含む全10学科による学科説明や体験プログラムに、未来のQOLサポーターを目指す沢山の高校生が集まりました。

2010年
7月～

国際交流協定締結

2010年
8月

8月18日、本学とフィリピン共和国アンヘルズ大学財団との間に、国際交流に関する大学間覚書を締結いたしました。本学では今後も、保健・医療・福祉分野の連携実現を目指し、国際交流の推進に努め、学術交流及び学生交流を進めてまいります。



大学祭

10月9日、10日の両日、大学祭「伍桃祭」が「STAND BY～支えたい～」をテーマに開催されました。当日は3500名を超える多くの方々にご来場いただき、大変にぎやかなイベントとなりました。

2010年
10月

新潟医療福祉学会

2010年
10月

第10回となる新潟医療福祉学会学術集会が開催されました。今回のメインテーマは「ライフ・イノベーション」ということで、「世界の中の日本」を常に考え、グローバルに保健、医療、福祉を考えていく必要性を本学術集会から発信することができました。

高橋名誉学長
瑞宝中綬章 受章

2010年度の秋の叙勲の受章者が発表され、本学の高橋榮明名誉学長が「瑞宝中綬章」を受章されました。高橋名誉学長は、平成13年4月に本学の初代学長に就任以来、平成22年3月の退任まで「優れたQOLサポーターの育成」を建学の理念に現在の新潟医療福祉大学の礎を築いてこられました。

2010年
11月

1年間の活動報告

平成22年度学友会会長
社会福祉学科 3年 桐山 渉



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。多くの人と出会い、様々なことを学んだこの大学生活4年間は、今後も色濃く思い出に残るのではないのでしょうか。

また、日頃より学友会の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。学友会行事である伍桃祭やスポーツ大会、美化キャンペーン等様々な場面で4年生のみなさんご参加、ご協力のおかげで、今年度も大いに賑わいを見せて、学友会行事を終えることができました。

今年は大学創立10周年を迎え、それと同時に学友会の歴史も10年目を迎えました。今年度は先輩方の作って頂いた形を残しながら、学友会がより機能するよう組織作りを行いました。各行事の基盤作りや学友会の仕事の基盤作りを行うことが出来たため、今後はより学生のニーズに応えた活動を行っていきたいと考えています。さらに今年度は、市長との話し合いの場を設けていただいたり、新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス「NEW街の駅」の開設がある等、より地域との連携を図る年となりました。大学と区が連携して物事を成すということは、今まであまり前例がないことですが、新潟医療福祉大学は「NEW街の駅」を中心として、今後も地域と共に発展していこうと考えています。

卒業生の皆様はこの大学生活の中で多くの絆が生まれたと思います。それ

は同じ学科の人や部活・サークル、ゼミ、様々なつながりの中で生まれたのではないのでしょうか。そんな大学4年間で生まれた絆を、社会に出てからも大切にしていきたいと考えます。

最後になりますが、学友会は、学生と共にこの新潟医療福祉大学を盛り上げ、より良い大学にしていくために活動していきます。これからも、どうか学友会を温かく見守って頂けたら幸いです。また、近くまで来られた際には、是非お顔を見せていただきたいと思います。



第10回伍桃祭(大学祭)報告

伍桃祭を終えて

第10回伍桃祭実行委員長
理学療法学科 2年 大井 結寿



今年の伍桃祭のテーマである、「STAND BY～支えたい～」には学生が学部学科を越えてお互いに支え合える関係を作りたい、患者様を支える存在でありたい。また、

大学のある北区の地域の皆さんとより密接にかかわり合いたいという願いが込められていました。そこで、今年度は例年以上に地域の方にも参加していただけるような参加型の伍桃祭を企画しました。

毎年恒例となりつつあるフリーマーケットは昨年よりも規模を大きくし、あいにくの雨の中もたくさんのお客様が来て下さいました。他にも「すまいるはあ～」という名の写真アートで、写真とともに「あなたの支えたい人はだれか。」を書いていたいたり、「バンダナを付けた実行委員を探せ」という企画で幅広い年齢の方に参加していただくことができました。昨年より地域密着型の大学祭ということに重点を置いて企画してきたので今年度もそれを引き継ぎ、昨年以上に盛り上がることができましたと思います。

イベントでは、RAG FAIRさん、ひなたさんのライブや同窓会主催の渡部陽一さん講演会、生涯学習センター主催の大倉修吾さん講演会を行い、また、9学科それぞれの学科パフォーマンス、学科対抗イベントを行ったりし、体育館や大講堂から溢れるほどの人にご参加いただきました。

今年度は2日間両日も天候が良くなく予定変更せざるを得ない点が多くありましたが、多くの方の協力のおかげで過去最高の大学祭集客数となりました。

最後になりましたが、無事に10周年記念伍桃祭を終えることができたのも、学生や、教職員の方々を始め、地域の方々や、企業の方々など多くの方にご協力していただいたおかげです。そして、一緒に企画・運営をしてくれた学友会・伍桃祭実行委員、先輩に感謝いたします。ありがとうございました。





サッカー部

「アルビレックス新潟レディースの底力!」

～6名の女子部員～

平成22年12月26日(日)国立スポーツ科学センター西が丘サッカー場にて、今シーズンを締め括る 第32回全日本女子サッカー選手権大会 準決勝 アルビレックス新潟レディースvs浦和レッドダイヤモンズレディース の試合が行われた。試合は前半を0-2で折り返し、後半に1点を返し2-1に詰め寄るものの、その後1失点を喫し1-3の敗戦。悲願の決勝進出、優勝は達成できなかった…。

アルビレックス新潟レディースと連携し、男子チーム(平成20・21年度インカレ出場)と同様に、女子部員の活動を支援すること4年。現在、同チームに所属する部員は6名になった。学生は4限の授業が終わると、17:00から始まる練習に参加するため、一目散に聖籠町にあるアルビレックス新潟クラブハウスに車を走らせる。練習後、チーム全員で夕食を摂り、自宅や下宿に戻るのには21時過ぎ…という生活を繰り返す。

早いもので、女子部員1期生 波佐谷 灯子(健康スポーツ学科4年 新潟国体準優勝 元U-17日本女子代表)は、この3月に卒業式を迎えた。思えば、1年生の頃は履修の関係でチーム練習に参加することができず、本学男子チームの練習に参加することもあった…。

なでしこジャパンは、国際サッカー連盟(FIFA)5位に位置し、来年度はFIFA女子ワールドカップ2011での活躍が期待されている。今後、更なる日本女子サッカー発展を遂げるためにも、「なでしこリーグ」のレベルアップが重要となる。そのような意味でも、彼女たちの健闘を期待せずにはいられない…。 頑張れ!アルビレックス新潟レディース!頑張れ!新潟医療福祉大学トップアスリート!

監督(健康スポーツ学科 准教授) 秋山 隆之



陸上競技部

平成22年度の陸上競技部の成績としては、日本学生陸上競技対校選手権大会で土田祥太(健康スポーツ学科3年)が円盤投げで5位と昨年に続き入賞し、底力を見せてくれました。日本学生には総勢9名が参加することができ、始まって以来の好成績を上げることができました。個人参加数では他大学に見劣りすることのない人数になりました。その内訳は、北日本学生陸上競技大会で、布施和太(社会福祉学科4年)が三段跳びで優勝、北信越学生では遠藤紗織(健康スポーツ学科4年)400m H(北信越学生新)、小林夢衣(健康スポーツ学科4年)走り幅跳び、杉坂侑磨(健康スポーツ学科4年)3000mSC、中澤翔(健康スポーツ学科4年)5000m、土田祥太(健康スポーツ学科3年)円盤投げ、小林梨奈(社会福祉学科3年)やり投げ、渡部祐万(健康スポーツ学科3年)七種競技の7種目に優勝で、日本学生への出場権を得ました。総合点でも男女4位にまで上がってきました。さらに灰野紗生子(理学療法学科1年)ハンマー投げで標準記録を破り出場しました。また、出雲全日本大学選抜駅伝大会に中澤翔(健康スポーツ学科4年)が北信越学連選抜選手として疾走しました。年々、多くの部員が全国大会に出場できるようになっています。今後も

切磋琢磨して練習に励み、良い成績を出しています。

監督(健康スポーツ学科 教授) 丸山 敦夫



水泳部

2010年度、水泳部は創部6年目を迎え、白野友梨奈(4年)がジャパンオープン8位入賞、日本学生選手権(全日本インカレ)7位入賞。奈良梨央(3年)が全日本インカレで5位入賞を果たし、創部以来初めての全日本インカレで同時に2名入賞を達成することができました。

また、部員たちは新潟県内の大会で競技役員など大会運営のお手伝いをしたり、地域の小学校にボランティアで水泳指導に行くなど、水泳を通じた地域貢献も意識して行っております。

また、部員たちには、「速く泳げることは社会に出てから役に立たない。速く泳げるために本気で努力することが社会に出てから役に立つ。」「チーム目標を達成するため、自分の役割を考えて行動(練習)しよう」という2つのことを話してきました。卒業する部員たちには、この水泳部で培ったことを忘れずに社会に出てからも精一杯頑張ってくださいと思います。

新潟医療福祉大学水泳部は「認めあい、支えあい、競いあうチーム」「多くの人から応援されるチーム」という2つのチーム理念を掲げ、これからも日々精進していきたい

右:白野友梨奈さん(ジャパンオープン7位入賞)
左:奈良梨央さん(全日本インカレ5位入賞)

<大会での応援風景>



と思います。

日々の活動報告を以下で紹介していますのでご覧ください。

<http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>

卒業おめでとう。そして、4年間ありがとうございました。

監督(健康スポーツ学科 准教授) 下山 好充

男子バスケ部

本学男子バスケットボール部は、大学強化クラブに指定され(H17年度)本格的に強化を始めた当初から、全国および県内のバスケットボールファン、関係者に注目されてきました。

今年度男子は、北信越学生バスケットボール春季リーグ戦(5月:新潟市)で1部リーグに初参戦しました。初戦の新潟経営大に逆転で勝利し、続いて信州大、金工大に快勝しました。最終戦の富山大には善戦しましたが敗退し、初参戦で準優勝(3勝1敗)しました。

北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選(10月:松本市)は、昨年度のまさかの予選トーナメント敗退の悔しさを、今年こそインカレ出場で晴らしたいと望んだ大会でした。今年も予選トーナメントブロック決勝(金沢大戦)で予想もなかった接戦となり、2回の延長戦の末勝利し決勝リーグへ進出しました。決勝リーグ初戦は、予選トーナメントプロ

ック決勝終了後、約1時間ほどの休息時間でトスアップとなり接戦、激戦後で気力、体力とも復活できないままの戦いとなりました。全員での総力戦で挑みましたが敗退しました。2戦目は新潟経営大に勝利し、最終戦の富山大戦は、勝てば優勝負ければ4位という大一番となりました。今年度北信越で一番の実力校である富山大に、最終ビリオド残り時間5分までリードする善戦でしたが、僅差で敗退しインカレ出場を逃がしました。北信越学連の関係者からは、学生の頑張りにも多大な称賛を頂きました。

今年度も県内外から強力な新戦力となる新入生が入学し、意識の高い練習と練習内容も更にレベルアップしました。その練習の成果と、努力した結果をインカレで発揮できず残念なシーズンとなりました。来年度こそ必ずインカレ出場し、初戦突破を目標に更なる努力を重ねていきたいです。最後に男子バスケットボール部のために保護者の皆様方、大学関係者、卒業生の方々から多くのご声援とご協力を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

監督(健康スポーツ学科 准教授) 高沢 文隆



(2010年度主な戦歴) <男子>

○北信越学生バスケットボール 春季リーグ戦1部(1部初参戦)	準優勝
○北信越学生バスケットボール選手権大会 兼インカレ予選	4位
○新潟県学生バスケットボール選手権大会	ベスト4

女子バスケ部

平成22年度 女子バスケットボール部活動報告

今年、監督に就任したものの今まで歴史を作った4年生が揃って抜けてしまった後、果たして現部員のニーズに応えられるかどうか最心配なところでしたが、部員一同の理解と努力により最大の目標である全日本大学選手権大会への北信越代表出場権も獲得でき、1回線での敗北となりましたが初期の目的は達成できたように思っています。

右記に成績結果の報告をいたしまして活動報告とします。

監督(健康スポーツ学科 教授) 大滝 和雄

※年間成績結果報告(4月～12月までの戦績)

4月	第64回近県バスケットボール選手権大会	3位
5月	第44回笹本杯争奪北信越大学 バスケットボール春季リーグ戦大会	優勝
7月	新潟カップバスケットボール大会 第55回新潟日報杯争奪バスケットボール大会	ベスト8
8月	第59回西日本学生バスケットボール選手権大会 新潟県学生リーグ戦	優勝
9月	甲信越大学バスケットボール定期戦大会 第57回北陸バスケットボール選手権大会	ベスト8



10月	バスケットボール選手権大会兼インカレ予選	2位
・1回戦	新潟医療福祉大学 134-48	清泉女学院大学(長野県)
・2回戦	新潟医療福祉大学 83-72	北陸学院大学(石川県)
・決勝リーグ	新潟医療福祉大学 74-79	長野大学(長野県)
	新潟医療福祉大学 80-74	新潟経営大学(新潟県)

	新潟医療福祉大学	新潟経営大学	長野大学	勝敗
新潟医療福祉大学		○ 80-74	×	1勝1敗
新潟経営大学	×		○ 65-48	1勝1敗
長野大学	○ 79-74	×		1勝1敗

・2試合の総失点÷総得点(3チームが1勝1敗になったためゴールアベレージ計算となった。)

	総失点	総得点	数値	順位
新潟医療福祉大学	153	154	0.99	2位
新潟経営大学	128	139	1.08	優勝
長野大学	139	127	0.91	3位

11月	第62回全日本大学バスケットボール選手権大会	1回戦敗退
	新潟医療福祉大学 57-66	鹿屋体育大学(九州ブロック1位代表)

写真部

ご卒業を迎えた第7期の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本学写真部は、カメラ初心者の方が多いため、『みんなで楽しくいい写真を撮る!!』をテーマに活動を行なっています。上手く写真を撮ることにこだわらず、ひとり一人がその感じたものを撮りたいものを撮って、一瞬一瞬をカメラに収めています。

写真部の活動としては、毎年伍桃祭で展示会を行ない、また伍桃祭・オープンキャンパスの記録を行なっています。他にも部員達で話し合い、年に何度か撮影会に行っています。今年度は、春は五泉で桜の撮影会(村松公園)、夏は海の撮影会(関屋浜)に行ってきました。撮影会は、撮影技術の向上や部員同士の交流の場を目的として行なっています。また写真部では、一眼レフカメラやコンパクトカメラなどを多種、保有しているため、部員に貸出を行ない、様々なカメラに触れる機会を設けています。

写真は、日々の生活の中で撮った一枚一枚が思い出となり、いつみてもその時を思い出せるのが写真の良いところだと思います。先輩方も本学で過ごした、たくさん思い出を胸に、これからの社会人としての生活を頑張ってください。

写真部部長(理学療法学科) 小林 奈央



女子ハンドボール部

女子ハンドボール部は創部2年目のまだ新しい部活です。練習は男子ハンドボール部と合同で行っていますが、昨年度から女子部が創られ女子のチームとして公式戦に出られるようになりました。今年度は北信越春季2部リーグでは2位でしたが、北信越秋季2部リーグでは振るわない成績でした。ハンドボールを大学から始めた選手が多くまだまだ力はありませんが、日々ハンドボールの楽しさを発見しながら明るく楽しく練習をしています。今までは早朝の練習のみでしたが、後期からは週2回の夜練習をさせて頂けるようになり練習時間も増えてより良い練習ができるようになりました。先生、先輩方からご指導ご声援を頂き、たくさんの方々に支えられながら活動できることは喜ばしく、とても励みになります。現在は、春季北信越リーグに向けての練習をしています。

応援して下さる方々の期待に応えられるよう、前回の大会の反省を活かし切磋琢磨しながら練習し、一つでも多く勝ちあがれるように努力していきたいです。

女子ハンドボール部部長
(理学療法学科) 高野 沙織



大学院

新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

+αの高度専門職を目指しませんか？

第7期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして既にご卒業された皆さん、お元気ですか？早いもので本学も開学10周年目をむかえ、全国で多くの卒業生が活躍されていることと思います。

さて、複雑化する社会・医療制度、深刻化する医師不足など保健・医療・福祉分野は現在大きな転換期をむかえています。本学大学院では、このような状況に正面から向き合い、科学的根拠に基づいた問題解決のできる高度専門職の養成に力を入れております。また、在籍院生の約6～7割が社会人のため、社会人の方には特に授業面で柔軟に対応しております。

臨床・実務経験のみだけでなく、研究成果を現場に還元のできる+αの高度専門職を目指してみませんか？ 新潟医療福祉大学大学院は学びたい卒業生のみなさんを全面的にバックアップします！

■充実の制度

- 卒業生の場合、入学金が**半額(10万円)免除**。
- 平日の授業は18時10分からスタート。土曜日・集中授業もあります。
- 長期履修生制度あり。(修士:3年・4年、博士後期:4年・5年・6年)
- 教育訓練給付金指定対象**。(修了後、**申請者に10万円の補助金が支給**されます)
- 各種奨学金制度あり。(いずれも定員があります)
- ・**大学院無利子貸与奨学金(学費の全額が半額を無利子にて貸与)**
- ・特別研究奨学金(卒業生対象。年間15万円～20万円を給付)
- ・修学援助奨学金(2年次に15万円～20万円を給付)



*資料請求やお問い合わせは本学入試事務室まで。 TEL:025-257-4459、FAX:025-257-4456、E-mail:nyuusi@nuhw.ac.jp

同窓会ホームページのお知らせ

皆さん、同窓会ホームページをご覧になってますか？

母校や同窓会の最新ニュースは日々更新されています。また、活躍している卒業生を紹介する「卒業生は今!」や、「ここに届くいい話」は毎月10日頃に更新をします。是非、定期的にご覧ください。また、同窓生の方に役員が寄稿のお願いをしております。役員から依頼があった際は、ご協力をお願いいたします。



会員情報・住所変更届のお願い

住所、勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。

また、同窓会に関するご意見・お問い合わせ・投稿は、

E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会サイトについて(会員情報・住所変更届出)

<http://nuhw-dosokai.jp/>

編集後記 Hennsyu-kouki

7期生のみなさん、卒業おめでとうございます。また、同窓会入会おめでとうございます。学生生活4年間はいかがでしたでしょうか。これから社会人として働くみなさんを先輩一同応援しています。さて、同窓生のみなさんは、今年度はどんな1年でしたか…。きっと充実していたことと思います。毎年、同窓生数が増える中、同窓会の活動もさらに充実させていきたいと思っています。

さて、渡部陽一さんの講演は盛況に終わり大変うれしく思っています。渡部さんの飾らない人柄と想いを伝えたいという気持ちが講演を聞いている私達にも届きました。ステージを降りた渡部さんはステージ上と変わらずとてもやわらかい方で、同窓会一同来てくださったことに感謝しています。そして、ご参加くださったみなさん、本当にありがとうございました。

(健康栄養学科 2005年卒 保莉)

新潟医療福祉大学同窓会

問い合わせ先：新潟医療福祉大学 事務局内 同窓会支援室

●新潟市北区島見町1398番地

●メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp

●電話番号 025-257-4455